

平成30年第1回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	平成30年3月2日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	平成30年3月12日 午前9時30分			議 長 田 中 政 司	
	散会	平成30年3月12日 午後3時37分			議 長 田 中 政 司	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	山 口 卓 也	出	9番	森 田 明 彦	出
	2番	諸 上 栄 大	出	10番	辻 浩 一	出
	3番	諸 井 義 人	出	11番	山 口 忠 孝	出
	4番	山 口 虎 太 郎	出	12番	山 下 芳 郎	出
	5番	宮 崎 一 徳	出	13番	山 口 政 人	出
	6番	宮 崎 良 平	出	14番	芦 塚 典 子	出
	7番	川 内 聖 二	出	15番	梶 原 睦 也	出
8番	増 田 朝 子	出	16番	田 中 政 司	出	

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	村上 大 祐	子育て支援課長	大久保 敏 郎
	副市長	中 島 庸 二	市民協働推進課長	筒 井 八重美
	教 育 長	杉 崎 士 郎	文化・スポーツ振興課長	小 池 和 彦
	総務企画部長	辻 明 弘	福 祉 課 長	染 川 健 志
	市民福祉部長	中 野 哲 也	農 林 課 長	横 田 泰 次
	産業建設部長	宮 崎 康 郎	うれしの温泉観光課長	井 上 元 昭
	教育部長 教育総務課長兼務	大 島 洋二郎	うれしの茶振興課長	宮 田 誠 吾
	会計管理者 会計課長兼務	池 田 秋 弘	建設・新幹線課長	早 瀬 宏 範
	総務課長 選挙管理委員会事務局長兼務	永 江 松 吾	環境下水道課長	
	財 政 課 長	三 根 竹 久	水 道 課 長	中 村 はるみ
	企画政策課長	池 田 幸 一	学校教育課長	徳 永 丞
	税務収納課長	小 國 純 治	監査委員事務局長	
	市 民 課 長		農業委員会事務局長	
健康づくり課長	諸 井 和 広	代表監査委員		
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	田 中 秀 則		

## 平成30年第1回嬉野市議会定例会議事日程

平成30年3月12日（月）

本会議第3日目

午前9時30分 開議

### 日程第1 一般質問

順次	通告者	質問の事項
1	諸上栄大	1. 市長の政策と今後の取り組みについて
2	山口忠孝	1. 今後の抱負について 2. 教育問題について 3. 文化財について
3	辻浩一	1. 市長選の公約について 2. UD化の推進について 3. 市道整備の考え方について
4	山口卓也	1. 公共施設等の管理について 2. 産業の振興について 3. 総合計画に係る実施計画の策定について
5	山口虎太郎	1. 嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

---

### 午前9時30分 開議

#### ○議長（田中政司君）

皆さんおはようございます。

本日は全員出席であります。定足数に達していますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 一般質問を行います。

それでは、通告順に発言を許します。

2番諸上栄大議員の発言を許します。諸上栄大議員。

#### ○2番（諸上栄大君）

皆様おはようございます。傍聴席の皆様方におかれましては、早朝より足を運んでいただきまして、ありがとうございます。議席番号2番諸上栄大です。1月に行われました嬉野市議会議員選挙におきまして、市民の皆様方からの御支援を受けまして、きょう初めてこの壇上に立たせていただくことができました。これからは皆様方の期待と信頼に応えるべく、初心を忘れず邁進していく所存でございます。

前置きが少々長くなりましたが、議長の発言の許可をいただきましたので、ただいまより通告書に沿って一般質問を行わせていただきます。

まず、市長の施策と今後の取り組みについてですが、これまで市の政策についてどうお考えになられていたのかをお聞きします。

なお、あとの質問項目に関しては質問席で行います。

**○議長（田中政司君）**

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（村上大祐君）**

それでは、諸上栄大議員の御質問に対してお答えを申し上げたいと思います。

これまでの市政に対する評価という御質問だというふうに承ります。

平成18年の合併以来、合併特例債などを活用して、かつて古湯温泉として親しまれたシーボルトの湯、塩田中学校改修や社会文化会館リバティの建設を進めてまいりました。財政面では、人口減や超高齢化社会の進行で単年度の収支で見れば厳しいものの、基金を合併当初の2倍超の70億円超まで積み増しており、未来の嬉野づくりの基盤は整っておるものというふうに考えております。

一方で、2022年の新幹線西九州ルート開業に向け、まちづくり計画や日々の業務のスピードアップが求められているということは間違いございません。広く市民の声を聞き、巻き込んでいく広聴体制と、嬉野市の存在感を国内はもとより、世界に発信していくための広報体制の強化が求められております。そういう意味では早急に取りかからなければいけない課題も山積しているというふうに考えております。

以上をもちまして、諸上栄大議員の御質問の回答とさせていただきます。

**○議長（田中政司君）**

諸上議員。

**○2番（諸上栄大君）**

先ほど市長のほうより、これまでの市政について答弁をいただきましたが、その市政に取り組まれてきた中で現村上市長が考えられる今までの物足りなさとか、逆に評価とか、具体的なところはどのような点だったのか、答弁をいただきたいと思います。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えを申し上げたいと思います。

物足りない点という御質問でございますが、職員の皆様も努力をしておりますし、前市政においても努力を重ねてまいったところでございます。ただ、この行政サービスというのは終わりのないものでございます。そういう意味では、常に足りない、足りないという気持ち

でもってやるのがまずは大それだというふうを考えております。

私が考える、これから求められるのはやはりスピード感だというふうに思っております。2022年ということで新幹線新駅の建設、開業については、もう後ろが決まっていることだと思います。そういう意味では、早く早くやって、新幹線が来てからまちづくりを考えるのではなく、いかに新幹線を迎えるかということが、今、問われているわけですので、日々の業務の中でスピードアップ、そして、その存在感を高めるための広報体制の強化について、しっかり組織の体制の改編も視野に入れながら、今、検討をしておるところでございます。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

諸上議員。

**○2番（諸上栄大君）**

市長の答弁において、常に住民サービスにおいて足りない意識、それと、スピードを持ってそういうふうなことに對しては対応していくというような答弁をいただきまして、そのことを期待しながら、私も次の質問に移っていきたく思います。

それでは、市長が選挙公報で挙げられていた政策に関しての質問を行います。

まず第1点、「笑顔が増える！佐賀No. 1の雇用」という点についてお伺いします。

その中で、農産物の加工や木材加工など嬉野市の地域資源とありますが、まず、担当課の方にお聞きいたしますが、現在、嬉野市において1次産業就労者、これにつきまして何名ほどいらっしゃるか、また、年齢、性別構成までわかればお聞きしたいと思いますが、お願いします。

**○議長（田中政司君）**

農林課長。

**○農林課長（横田泰次君）**

お答えをいたします。

現在、資料を持ち合わせておりませんので、後だつて提出をいたしたいと思ひます。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

諸上議員。

**○2番（諸上栄大君）**

わかりました。ただ、私が市勢要覧の中で確認をさせてもらったデータが確実なものかわかりませんが、現在、嬉野市の平成27年の第1次産業の就労者人数に関しては1,258名というような状況で記載されていたかと思ひます。その年齢別、世代別構成に関してはちょっとまだ不明なんですけれども、また後だつて資料をいただけたらと思ひております。

それでは次に、市長にお伺いします。

この施策の中で農産物加工や木材加工といった記載が書いてありますが、具体的にどのような加工品を考えていらっしゃるのか、答弁をいただきたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

農産物加工についてでございます。非常に優良農地を嬉野市内は抱えておりまして、今、現状でもキャベツの栽培、露地野菜の栽培にも取り組んでいただいておりますし、非常に評価の高いお米、それから大豆、そういったものも生産をされておるわけでございます。

山間地においては、新しい作物としてもフクガシラであったりとか、いろんな多種多様な農業が展開をされておりますので、そういった農産物を加工する、そういう工場を誘致できれば、優良農地の保全と、そして、雇用の確保、一石二鳥で解決ができるのではないかとこのように考えておりまして、今回、私もこういった施策を掲げさせていただいたところでございます。

一方、木材の活用ということでございますけれども、嬉野市の6割を山林が占めるわけでございますけれども、今、関係者には大変努力をいただいておりますけれども、一部では荒廃も進んでおるとございまして。九州北部豪雨では流木が下流の家屋に突き刺さるなど広範囲に被害をもたらしておったということも記憶に新しいところではないでしょうか。林業振興というのは、そういう意味では防災の面からも非常に重要だこのように考えております。さらに、経済成長著しい東南アジア諸国では、国産材に対する需要も高まっておりますので、輸出も、今、盛んに行われているというふうに伺っております。木材の1次加工の工場などを林業木材加工ということで想定をしております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

先ほど答弁の中で、農産物加工に関しては野菜の加工工場の建設等も考えられていらっしゃるやったり、あるいは林業に関しては防災等を踏まえた対策ということも考えていらっしゃるということを答弁していただきましたが、答弁の中で、市に約6割ほど山林があって、しかも、荒廃が進みつつあるというようなこともお話をいただきましたが、この第1次産業の就労状況というのは非常に厳しい状況だと思っております。しかも、この森林の整備ということに関しては担い手の減少の中、そういった中で具体的に雇用を生み出すと、雇用を考えるという場合において、目標値としてどれくらいの目標値を挙げていらっしゃるのか、また、

そのような目標値の目標達成に向かっては、どのように具体的に雇用対策に取り組んでいられるのか、改めて再度お伺いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

雇用の目標の人数ということでございますけれども、これは各企業どのような規模になるかというのはまだちょっとわかっておりませんので、全体的な公約の中で私がお約束させていただいたのは、企業誘致ビルも進めておる中でのそういうIT、事務系の雇用も合わせた数で200人ということでお約束をさせていただいておるところでございます。

そして、質問としては、その目標に向けてどのようにやっていくかということでございますけれども、既にそういった食品加工の業者、食品加工工場を展開している、そういう事業者等にもこういった意向を持っているということはお伝えはしております。具体的にどこをどうするという話は、まだそういった担当課との詰めの段階もございますので、その辺の実現性を探りながら、企業用地の造成についても並行して考えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

私自身としては、ちょっとこの件に関してもいろいろ考えさせてもらったんですけれども、森林資源の維持、造成、また、商品加工への取り組みに関しては、やっぱり若い力というのが必要になっていくということは必要不可欠なことだと思います。そのような中での一つの起爆剤的な考え方ではございますが、ふるさと応援協力隊、あるいは緑のふるさと協力隊、そういった事業を積極的に活用しながら、担い手づくりや商品加工のアイデアを取り入れていくべきではないかとは思いますが、そのような考えも踏まえて検討していただければと思っておりますが、市長の見解はどうでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員が御提案のことは非常にうれしく思っております。しっかり研究をしてまいりたいと思います。実際、佐賀市においても林業女子という形で、そういう林業の担い手を外部から誘致して情報発信に努めているという事例も聞いております。そういった事例も研究をいた

しながら、今後そういった実現に向けて努力をしてまいりたいというふうに考えております。  
以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

先ほどの答弁の中で、約6割山林があるというようなことを逆に考えれば、これに雇用が生まれれば、すばらしい嬉野の地域の特産物、あるいはアピールにもなると思いますので、ぜひその辺は市長御自身がトップセールスマンとなって、そういう働きかけをしていかれることを切にお願いして、次の質問に移りたいと思います。

それでは、次の質問に移ります。

企業誘致に関してなんですけれども、担当課にお伺いします。当市における企業誘致の実績数、社名及び会社の規模についてお伺いしたいと思いますが、お願いします。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

嬉野市におきましては、ただいまあるのは佐賀シール、それからハヤテレ九州、それから、ペッツベスト少額短期保険会社でございます。

規模でございますけれども、従業員数でよろしいのでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）従業員数については数値を持ち合わせておりませんので、後ほどお答えしたいと思います。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

先ほど担当課のほうより実績に関しては、佐賀シール及びハヤテレ九州、ペッツベストというようなことで説明を受けました。

次に、市長についてお伺いします。市長はこの公報の中で、企業誘致においては「親和性の高い企業誘致」と記載されておりましたが、この親和性とは私も辞書で調べましたところ、物事を組み合わせたときの相性のよさ、結びつきやすい性質というような内容で記載されておりました。具体的に、この親和性のある企業とはどのような企業を指すのか、考えていらっしゃるのか、そういった点でのお伺いをしたいと思います。お願いします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

親和性の高い企業ということで想定をしているのは、農産物加工と木材加工の工場ということで挙げさせていただいております。親和性の高いというのは、企業誘致を全県で見渡してみますと、今、工業団地を造成しております武雄市、そして伊万里市、そういったインターチェンジや港に近いところから順番にやはり重工業系は埋まっていくものだというのが定石だというふうに考えております。そういう中で、嬉野市がその競争を、同じ土俵で競争すると、それはちょっと非常に厳しいというふうな実感を持っております。そういう意味では、嬉野市の地域資源と嬉野市でなければいけないという必然性を持った企業に進出していただくように働きかけていく、的を絞ってやっていかなきゃいけないというふうに考えておりますので、こういう親和性の高い企業ということで公約にも掲げさせていただいたところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

先ほどの御質問に対して答弁させていただきます。

規模ですけれども、佐賀シールが現在従業員数が480名です。それから、ハヤテレ九州が117名です。それから、ペッツベストが13名でございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

3件の企業に対して、約600名ほどの企業誘致をされていたという実数で説明を受けましたが、これからもこの企業誘致に関してはどの市町も確実に力を入れて取り組んでこられるミッションだと思っておりますが、私は企業誘致を考えた場合に、定住促進というような両輪で考えていかなければならないという視点も大事だとは思っています。

そこで、企業を誘致する市として、企業誘致に対しての定住促進の優遇措置をふやしたらどうかということも考えてはおります。よその市町の取り組みに関しては、企業誘致した企業の社員の場合、アパート、それに対しても幾らかの助成金をつけるだとか、また、引っ越しに関する奨励金も検討されていらっしゃる状況ではございますが、当市においてもそういうふうな付加価値をつけた企業誘致、定住促進事業の推進ということを検討していただけたらどうかと思いますけれども、その件に関して市長の御答弁を受けたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいというふうに思っております。

定住促進に対する奨励金という形で、本市においてもそれはさせていただいておりますけれども、そのさらなる拡充をとという御提案かというふうに考えております。その辺は予算のこともございますので、担当課と協議しながら研究はしてまいりたいと思いますが、周辺の自治体を見渡しても、どんと100万円とか、かなりそういう競争が一時期激しくなったという部分もございます。そういう意味では、過度な競争、ある意味では渡してしまっただけで終わりでなくて、住みよい嬉野市をつくるということで、例えば、その働き盛り世代に対する健康づくりであったり、そういう子育て支援、そういったソフトの面での取り組みを重視しながら私は考えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

諸上議員。

**○2番（諸上栄大君）**

確かにこの奨励金のバリエーションをふやすというようなことになると、その前提となるのは予算ということもありますけれども、市長の答弁のとおり、付加価値をつけるに当たっては、そのソフト面の充実というようなところで、市長はいかに市をアピールしていくのか、企業誘致していくのか、そういった視点もかなり大事になってくるだろうと思っておりますが、企業誘致においての今後の研究をしていただきながら、この取り組みに関しては進めていっていただきたいと思っております。何よりも嬉野市に来ていただいて、そして、長く住んでいただくことがこのミッションの最大の効果だとは思っております。まずは、今ある制度をフル活用しながら、時には奇抜な新しい発想も必要ではないかと、若い村上市長だったらできるというようなことでもありますので、そういったことでぜひともこの企業誘致に関してはさらなる目標値をふやしていただくようお願いを申しまして、次の質問に移りたいと思っております。

次の質問に移ります。

農業戦略についてお伺いします。

市長は、農業戦略についてもこの選挙公報に関して記載をされているようですが、現状における農業戦略について、このことに関しては市長はどのように現在お考えになられているのかをまずお聞きしたいと思います。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

塩田地区においては水田農業が中心となっております。嬉野地区では茶業を主体として

営農活動が継続をされております。いずれも省力化をしながら生産コストを圧縮して、一方で高品質で収量も高めていくという基本路線に沿って、県や農業団体と連携して、また、先端技術の導入も図ってまいりたいというふうに考えております。

さがびよりが日本穀物検定協会の食味ランキングで8年連続特Aということにもなりましたし、ことしは山間地などで主に栽培されている夢しずくも特Aとなったということですので、佐賀県農業には、今、追い風が吹いている折だというふうに考えております。ふるさと納税の伸びでも、佐賀牛を初め、嬉野市産の農産物に対する熱視線が、今、注がれているというふうにも実感をしています。さらなる販路拡大にも努めていくのが私どもの務めではないかなというふうに考えております。

特に、酒造会社や国税庁から品質に対して高い評価をいただいております山田錦については、酒米の増産という形で総合戦略にも盛り込ませていただいておりますし、露地野菜の生産と組み合わせて高単価なものを栽培していただいて、経営が成り立つような支援、工夫も大事だというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

先ほど幾らか答弁の中で、稼げる農業、これに関しても答弁があったと思いますが、私も市長の公報の中で、先端技術を導入して稼げる農業につなげていきたいというようなことも記載されていましたが、このことについての考えはどうかと思いますが、答弁を求めたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

先端技術ということでございます。キュウリを初めとする施設園芸では、光合成を促すCO<sub>2</sub>濃度を調節したりとか、湿度を調整する、いわゆる環境制御システムを活用することで収量や品質向上につないでいただいているというところでもございます。いわゆるオランダ式の農業を推進することで農業はこれから成長産業であるというふうに私は考えております。

あとは水田の箇所ごとに異なる栄養状態を瞬時に把握して施肥量を調節するスマート田植え機の試験導入も塩田町の集落営農組織で行っていただいております。

あとはドローンやAI、いわゆる人工知能を活用する農業にも私は注目をしております。今、佐賀大学と佐賀県、そして、ICT企業のオプティムという佐賀大学出身の気鋭の若手

社長が経営している会社でございますけれども、今、三者協定を結んで事業を展開しております。一端をお話しさせていただきますと、大豆畑の上にドローンを飛ばして空中撮影をした画像をAIで解析することによって、害虫の被害箇所を特定してピンポイントで農薬を散布するというような防除を行うことで、減農薬、無駄に農薬をばらまかないで済みますし、早期の病害虫の発見につながるということで、そういうさまざまな取り組みが、今、考えられておりますので、私もいろいろ研究をしながら、そういった最先端技術の導入に向けて努力をしてみたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

先ほど市長の答弁の中でかなりな先端技術の説明を受けましたが、私としても、気象庁の膨大なビッグデータを分析しながら農業につなげて、効果的な農作物がつかれるような取り組み、そういうことを行ったりだとか、稼げる農業に関していけば、生産から加工、販売を行っていく6次産業の需要増加、これも主になったり、さらには、嬉野市の野菜、嬉野市のお茶、しかも、安全・安心な嬉野市のそういう農産物ということブランド化して、さらなる販路の拡大も必要になってくるとは思っておりますが、その点に関しての考え方。

もう一点つけ加えますと、先ほど市長の答弁の中には、この農業戦略においても、企業及び大学、それと現場、この3つの共同体が協働しながら行っていかなければならないというようなことでおっしゃられてきましたし、私はそれに加えて、現在、気鋭の若手農業者、この方々が次世代にどうやってつないでいくか、今の現状をどうしているのか、どうやって稼げる農業を行っていくのかというようなアピールと申しますか、そういうコミュニケーション会議と申しますか、そういうのが今後はかなり重要になってくる要素だと思っておりますが、その点に関しての市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

ブランド化について、まず、御質問いただいたと思いますが、こういった先端技術を使ったものであるということも、それだけでも付加価値を生むものになると思います。嬉野市の農産物のブランド化に向けても、そういった歴史、物語、あるいはそういう最先端の技術、いろんな物語性を付加価値としながらブランド化に努めてまいりたいというふうに考えております。

若手の農業者の参画についても御提案いただきましたけれども、当然、最先端技術を誰が

やるのかというところには、やはり意欲のある若い農家に担い手となっていただくのが当然の筋だというふうに考えておりますので、そういった意欲のある農家の皆さんと語らいながら、できることを一つ一つやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

次に、市長は、若手や女性が魅力を感じられる農業で後継者確保という、この後継者に関しても施策の中でおっしゃられています、この件に関してはどのようにお考え、取り組んでいかれるのか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

若手の躍動ということでございますけど、JA青年部であったり、4Hクラブ、そういったところに所属している若い農家さんがいらっしゃいますので、そういった皆さんとも語り合いながら、あるべき農業の未来像というのを語っていききたいというふうに考えております。

女性農業者の活躍についても、近年、本当に女性の農業者の活躍が著しいものがございまして、農林水産省の農業女子プロジェクトの参加者の皆さんが中心となってカチカチ農楽が〜として活躍をさせていただいております。嬉野市から参加いただいているメンバーもおります。そういうしなやかな発想とか、共感を呼ぶコミュニケーション技術といえますか、そういったものを生かしながら、販路開拓、加工、流通のいわゆる6次化に取り組んでいただいております。昨年は嬉野温泉酒蔵まつりの会場でブースを出していただくなど、そういう活躍の場も広げられておりますので、こうした輪をいろいろ広げていければいいなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

この農業施策に関しましては、現在、後継者を育てるに当たっては若者に向けてのターゲット、これに関しての着眼点というのはすごい大事なことで、大事な視点だと思います。ただ、その前に、農業離れという問題も深刻になっていく問題だとは思いますが、ある町では町おこしとして、農業体験ゲームソフトの開発、これをネットでされていらっしゃる、どの世代でも農業に対してのイメージとか、そういうふうな奇抜なところをされていらっしゃる

ころもありますけれども、そういった実際の農業に携わっていらっしゃる、携わっていらっしゃる方にターゲットを置かない、もっと農業に対する裾野を広げていくという視点も大事じゃないかと思いますが、そういう農業ゲームの開発とか、そういったことの視点に関しては、市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

農業に親しむということの入り口を広げるということは、私も賛成だと思いますし、同感だというふうに考えております。

一方で、経営として成り立つかどうかというところも、やはり若い農業者が就農するかどうかの一つの決め手にもなるとお思いますので、その辺は、県、JAなどが今やっておりますトレーニングファームという制度もございます。農業経営術、高度な栽培技術と、そして、経営手腕、そして、ある意味では販路拡大のためのコミュニケーション能力、全てをフル活用して、経営が成り立つ農業経営を私どもとしても支援をしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

この農業後継者の確保に関しては、先ほどの質問の中でも1次産業の就労人口の状況ということも考えまして、今後、大きな問題であると思います。先ほど申しましたように、若手をターゲットとした施策を中心に、今後は今の子どもたちから農業に関心を持っていただくような施策、この施策展開も必要になってくると考えますが、市長、その点におきましては、どのようなお考えをお持ちであるか、お聞きしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えを申し上げたいと思います。

当然、若手の育成というのが大事な視点であるということでは、私も見解は一致をしておるところでございます。とにかく若い次の時代をいかに育てるかということは、農業に限らずの重要課題ではございますので、今後、そういった若い人たちとの語らいの場とかも通じて、ぜひともそういう次代を担う人、手を挙げていただける方をふやしていくように努力をしてみたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

ぜひとも嬉野ブランドの開発とさらなる販路の拡大、これに向かって、今の現状の産業人口の減少を招くようなことがないような農業戦略、稼げる農業、こういうことに関して施策展開をしていただくことを常に思っておりますので、ぜひとも強くお願いして、この質問は終わりたいと思います。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

子育て支援に関してでございます。

この中で市長が公報の中で記載されていた内容が、子どもと子育て世代が集まる場所でのぎわいを創出というようなことで公報に書いていらっしやいましたが、この具体的なビジョン、これに関してはどのように考えているのかということをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

現在、こどもセンターの整備に向けて準備を進めております。塩田保健センターの中に開設をして、相談対応や情報発信、各種子育てサービスのコーディネートなどを行う専門スタッフを配置して運営する方向でございます。

ただし、公約にも掲げておるように、単体としてのこどもセンターではなく、子育て世代に限らず、市民活動であったり、子育てにかかわる子育てサークルであったり、高齢者のサークルであったり、いろんな方が集う場になるように、ほかの機能と組み合わせて相乗効果でにぎわうような施設にしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

先ほど市長のほうからこの具体的なビジョンについてお伺いしましたが、そのビジョンの中で子育て世代を考えた場合に、現在ある子育て支援課、この担当課だけで対応していくということは到底そのビジョンに対しては難しいところだと思います。例えば、子育て支援課をメインに、あるいはそこに健康づくり課のいろんな事業があったり、あるいは障がいを持つ子を持たれていらっしゃる家族に対しては福祉課のサポートが必要になってくる、また、その子たちが小学校に上がったときには教育委員会のサポートも必要になってくるだろうと

思いますし、先ほど市長の中ではにぎわいを創出するという場において高齢者のサークルも一緒に考えて、また、さきの答弁では、農産物をそういうところに置いて、いろんな方が集まって、わいわいがやがやの場をというようなビジョンを話されていたら良かったです。

そういった中で、子育て支援を考えた場合に、たくさんの担当課が集まってしなければならない事業、ビジョンになってくるとは思います、その実効性に関して市長のお考え、具体的にはどのように考えていらっしゃるのかというところをお聞きしたいと思います。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

確かに議員御発言のとおり、いろんな課がまたがって対応しなければいけない問題はあろうかというふうには思っております。必ず週1回部課長会議も開かれますので、そういったところで連携を深めてまいりたいと思いますが、市民の皆様からすれば、子育てにかかわる問題はこの窓口、子育て支援課なり、このこどもセンターで設けられるところでワンストップで対応できるようにしていくのが本筋だというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

諸上議員。

**○2番（諸上栄大君）**

先ほど市長の答弁の中でもワンストップでの対応というようなことがありました。私も現場で仕事をしておりまして、私は福祉の分野でしたけれども、よく市民の皆様方から声を聞くのは、いろんな窓口があるんだけど、そこに行けば、あっちに行ってください、また、こっちに行けば、またそれは違います、あっちの課ですというたらい回しの状況になって困るというような話も受けたことがありますので、ぜひともいろんな課が共同して行っていくビジョンがあられると思いますので、そういうビジョンを遂行するためには、まずはワンストップ体制の拡充というようなことは非常に大事な視点だと思います。ですので、そういった視点をもとに今後の施策に取り組んでいただけたらと強くお願い申し上げます。

次にもう一点、市長は企業の育児休暇取得や産後の復職の支援とありますが、担当課にお聞きしますが、現在、嬉野市役所内での育児休暇取得率、このようなことに関してはどのような状況かをお聞きしたいと思います。

**○議長（田中政司君）**

総務課長。

**○総務課長（永江松吾君）**

お答えいたします。

市役所における産休や育児休業の制度についての御質問でございますが、制度としては産前産後の休暇、それから、育児休業に関しても整備をしておりますので、取得できる状態になっております。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

取得できる状態という、取得率的なもの、数字的なものがわかればということですけども、お願いします。

○議長（田中政司君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

産前産後休暇は全員取得されております。それから、育児休業につきましても全員取得をされております。期間についてはいろいろ育児休業は違いがありますが、その制度は職員は使っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

育児休業に関して取得されている状況ですけども、その中で、男性の取得に関して取得率というか、取得状況というのがわかれば、お聞かせ願いたいと思いますが、お願いします。

○議長（田中政司君）

総務課長。

○総務課長（永江松吾君）

お答えいたします。

今現在までの育児休業の男性での取得は2名だと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

現在、男性の取得率が2名ほどというような状況で答弁をいただきましたが、この状況に関して、市長の見解はいかがでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

男性の育児休暇の取得についての、今、2名ということでしたので、それについての評価ということでございますけれども、なかなか私も、私は当然子どもがおりますけれども、とったわけではございません。会社からとるなと言われたわけでもございませんし、やはり自分の中でもう少し意識改革が必要ではないかなというふうには思いますので、今後、この2名というのは一つの数字として出たわけでございますから、また、今後その辺は職員の皆様にも御理解をいただきながら、そういう取得に向けて考え方を、もう一回今なりの考え方を持ってもらうように努力をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

このように育児休暇及び産前産後休暇云々に関しては、どの企業においても規定されていることだとは思いますが、市長も公報の中で企業の育児休暇取得や産後の復職の支援というような視点に捉えると、市の状況もお聞かせ願ったことを総合的に鑑みて、非常に難しい状況、難しいことでもあるかと思いますが、市長、この公報にも掲げていらっしゃいます、企業にという、企業の云々というようなことでも記載されているようでございますので、その辺を今後どのように取り組んでいかれるのかというところをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員御指摘のとおり、各企業で人員不足が深刻化する折でございます。大変困難を伴うということは私も承知をしておるところでございます。

具体的にどうしていくのかということでございますが、業種によって職場の事情も大きく異なりますので、画一的な支援策というのは難しいので、今後、そういった企業への意見聴取も踏まえながら、厚生労働省のくるみんマークの指定を推奨していく方向で考えていければいいなというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

私自身の経験からも、私もちょっと子育て、2人の子どもを持つ父親として、幾ら制度があった状況であっても、なかなかこの休暇をとろうと思っていてもとりにくい労働環境であったりだとか、とりたいたいけれどもというような相談もいまだにしにくい環境も根強く残っているというようなのも一つの要因ではないかと思っております。

先ほど市長答弁の中で、いろいろこの分に関してはまたたくさん課題もあると思えますけれども、ぜひとも育児に関してはお母さんだけではなくても、現在父親、この育メンという言葉がはやっておりますので、育メンの育成というか、増加というか、そういうことに対しても取り組んでいただけたらと思っております。

県は「子育てし大県」のビジョンを掲げていらっしゃいますので、この子育て支援については、結構これから先いろんな知恵を出し合って取り組んでいかなければならない問題だと思いますけれども、子育て世代を代表するおやじとしては、ぜひとも強くこの取り組みを行っていただけたらと思っておりますので、切にお願いして、この質問は終わりたいと思います。

次の質問に移ります。

市長は公報の中で、新幹線構想について掲げていらっしゃいました。その中で幾つかお聞きしたいと思えますが、このフリーゲージトレインが行き詰まる中で、フル規格についての考えをまずお聞きしたいと思えます。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員の御質問にあるように、フリーゲージトレインの開発は難航をしておるわけでございます。仮に開発をされたとしても、車体の重さが災いして、その辺の最高速度という点では、ダイヤが過密になっているJR西日本が乗り入れについては難色を示しているという現状でございます。

本市といたしましては、開業が最大限発揮されるために、関西圏と直通するフル規格での整備を、これまで一貫して各方面に要望をしておるところでございます。

一方で、フル規格で整備した場合の佐賀県としての追加の財政負担約800億円についても重々承知はしておるところでございます。ただ、よくよく考えてみると、整備新幹線というものはそもそも国策でございます。前提が変わったわけでございますから、新幹線の便益というのも国民がひとしく享受するものでございますから、国の責任において財政負担スキームの見直し、割合の見直しをして、財政負担の軽減を図るよう、引き続き、佐賀県、長崎県の沿線自治体と連携をとりながら、国や鉄道事業者へ要望してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

先ほど市長の答弁の中でもありましたが、このフル規格に関して、お隣の長崎県に関してはかなりフル規格でいこうというような動きもされていらっしゃると思いますが、佐賀県は予算の関係でフル規格に関しては渋っているような記事云々を見受けます。市長が国策であるというようなこともおっしゃられて、確かにこの交通網は大きな事業でありますけれども、この整備に関しては国策になっていると思うんですが、佐賀県が渋っている事業をどうやって打破していくかということが今後大きな課題、やっぱりフル規格を推進していくに当たってはそういうふうにするかと思うんですが、その件に関して市長はどのようにお考えになられているのか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

確かに佐賀県としては、フル規格に対しての慎重姿勢というのが報道をされておるところでございます。とはいいますが、朝日新聞の3月2日付の紙面によりますと、山口知事が費用負担の面では長崎に佐賀県の負担がないのなら交渉の余地もあるというような趣旨の発言をしたというようなこともございます。やはり大きなハードルとなるのは費用負担の割合だというふうに考えておりますので、その問題をいかにクリアしていくかということが今後の大きな焦点になるかと思っておりますので、そこは連携をとりながらやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

私もこの新幹線構想に関しては一貫してフル規格、これに賛成している状況ではございません。リレー方式というようなところもありますけれども、いろんな観光客に負担を強いてしまうというような状況がないような取り組みを、今後、市としてもお願いしていただきたいと思っております。

それで、もう一点なんですけれども、今度は駅前構想に関しての記載になると思っておりますけれども、周辺住民の利用や企業も利用したくなるような交通整備や駅前整備をとということで公報の中で記載されておりますが、どのように取り組んでいかれるのかをお聞かせ願いたい

と思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

嬉野温泉駅が完成すれば、東彼杵郡の3町、それから有田、伊万里、鹿島、太良、そして、多くの観光客に今お越しいただいているハウステンボスの最寄り駅として地図上にあらわれるわけでございます。西九州観光の拠点として交通体系の整備に取り組むとともに、周辺の進出企業にも、ビジネス利用や関連企業のバックオフィス、経理とか、総務を担う部門の駅前の進出企業誘致ビルをつくりますので、そういったものをつなげていって、そういうステーションプロモーションといいたまいますか、ステーションセールスといいたまいますか、そういったものを仕掛けてまいりたいというふうに考えております。

駅前整備についても常々申し上げております、癒やしと健康のまちを前面に押し出したランドデザイン、基本の考え方を皆さんに周知するとともに、おりたくなる駅、そして、行きたくなるような駅として、広く市民、県内外の人に認知してもらえるように努力を重ねてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

この新幹線駅に関しては、現在、さまざまな機関が集まって新幹線駅構想をされていらっしゃる状況も私もお聞きしております。市長もせんだって、私ちょっとエフエム佐賀のことまで拝聴したんですけれども、この駅前整備に関しての熱い思いも聞かせていただきました。

しかしながら、新幹線が来るといような、本当に素晴らしいことだとは思いますが、逆の視点で考えると、若者が出ていってしまうリスクも今後あるんじゃないかとちょっと危惧するところではございますが、ぜひとも来ていただくことを最優先、出ていく若者をストップする事業の施策、こういうことで取り組んでいただけたらと思っておりますので、ぜひともお願いしたいと思います。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

高齢化対策についてです。

公報の中で、市長は空き家を改装した高齢者向けシェアハウスというようなことで記載をされていらっしゃいますが、シェアハウスとはどういうものでしょうか、お願いします。

○議長（田中政司君）

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

空き家を放置したままでは価値を生まないどころか、やはり空き家が空き家を生む状況ができてしまいますので、そういった新たな価値を吹き込むことで利活用を進めていく中での一つのモデルとして、シェアハウスということ为例示させていただきました。

いろんな高齢者の皆さん、気の合う方もいらっしゃるし、地域ごとにとということもあると思いますけれども、何人か複数人が居食をともにしながら余生を過ごしていただくというような場所にしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

諸上議員。

**○2番（諸上栄大君）**

空き家対策、この視点に関して考えていらっしゃるというような状況ではありますけれども、高齢者向けの施設、いわゆる有料老人ホームやサービスつき高齢者住宅等がありますが、それとこの高齢者向けシェアハウスとはどのように違ってくるのかということをちょっとお聞かせ願いたいと思います。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

いわゆるサ高住とか、そういう介護サービスがつくものもあると思いますけれども、その辺、私が想定をしているのは、例えば、趣味を同じくする人たちの比較的元気な人たちがともに暮らす場所としてのシェアハウスというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

諸上議員。

**○2番（諸上栄大君）**

趣味の合う元気な方を主体に高齢者向けシェアハウスの視点でお話があったと思いますが、若干ちょっと話がずれてくるんですけれども、市内に養護老人ホームという施設がありますが、この養護老人ホームの現状を見ますとなかなか空床が、かなりあいているというような状況でありまして、高齢化対策、共同住宅みたいな視点でいけば、現存する社会資源の使用緩和をしていただければ、有効活用ができるというような視点もあるかとは思いますが、そういう現在ある社会資源の有効活用、そういう視点を考えることも必要かと思いますが、そういった点に関しての市長の答弁をちょっとお願いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

養護老人ホームの空床の問題については、この問題とはちょっと性質が異なるものではないかなというふうに考えておまして、こちらはある意味、余生の楽しい過ごし方の提案の一環として空き家の活用はいかがでしょうかということで提案をさせていただいております、そういう福祉サービスが必要な方とはまたちょっと切り離して考える必要があるのかなというふうに考えております。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

すみません。ちょっと話がそれましたが、申しわけございませんでした。

空き家という視点で考えた場合に、市長はその高齢者向けシェアハウスという発想をされたわけなんですけれども、一長一短ありまして、低価格で入られるとか、入居者の趣味と一緒に楽しめるとか、気の合う人と生活できれば、かなり充実したことになるということで私も聞いております。ただしかし、その反面、運営する側としては、有料老人ホームやサ高住といったところは、やはり運営側とすれば、介護を要する方が入られるので、収入的な面に関してがかなりメリットがあるというところで、なかなか高齢者向けシェアハウスというような事業展開ができない中、空き家をもし使った高齢者施策云々を考えるという視点において、私としては、空き家自体にリノベーションをかけて、地域資源である温泉を有効活用して、温泉の湯治、こういうふうな療養型観光につなげるようなビジョン、視点というのも今後必要になってくるんじゃないかとは思っておりますが、この件に関して市長の見解をお伺いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員が御提案のそういうリノベーションによる活用の方法、確かに観光という側面での活用も考えられるというふうに思います。

今回、ここに高齢者対策の中で掲げさせていただきましたけれども、そういう空き家をどうしていくかというときに、空き家問題とそういう高齢者対策、あるいは空き家問題と観光振興、空き家問題と、といういろんな組み合わせの中で空き家問題を解消していく中の一つの事例になるかというふうに私も思っています。若い人が空き家を活用するとすれば、ゲ

ストハウスであったりとか、外国人観光客の受け入れが不足しておりますので、そういう外国人向けのそういう宿泊所、あとはユース、小さな子どもたちのスポーツ合宿の宿泊がもう不足しているというようなこともありますので、そういう空き家を改装して、そういうものができないかとか、いろいろやはり空き家問題というのは、今、その単独だけの解消は非常に難しい時代に来ております。そういう意味では、いろんな組み合わせが空き家問題の解消のバリエーションがあると思いますので、議員の御提案もしっかり受けとめながら方策を練っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

高齢者対策の中で、空き家というような視点の中での施策を考えた場合にシェアハウスということで記載はされていたものの、実際に運用を考えた場合に、空き家をどうしていくのか、じゃ、高齢者を空き家に使っちゃおうというようなことで施策も組めるし、あるいは若者をどう呼び込めるかということも組んでいけるし、言うならば、高齢者対策、空き家対策をするにしても、先ほど申しましたように、じゃ、高齢化対策は福祉課だけだよというような取り組む視点ではなくて、やっぱり広い視野で今後は考えていく必要もあるのかなということをおもっておりますので、ぜひそういうふうな広い視野での施策推進を行っていただけたらということを考えておりました。

もう一点、過疎化の公共交通モデルや買い物対策についてということで記載されておりますが、まず担当課にお伺いします。

過疎地の公共交通の状況はどのような状況なのかということと、それについての課題の有無に関して、もし課題があれば、その課題に対してどのようにお考えになられているのかということをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

過疎地における公共交通の状況ですけれども、こちらにつきましては、うちのほうでやっております乗り合いタクシー事業、こういうものを御利用されているんじゃないかと思っております。それと、地区によりましては廃止路線代替バスも走らせておりますので、これで御利用をされているという思いでございます。

それから、課題でございますけれども、どうしてもバス、タクシー、先ほど申しましたけれども、時間等、自分が使いたい時間、そういうのもなかなか難しい面もございます。交通

弱者に対して、きっちりうちのほうがバスを運行している、乗り合いタクシーを運行しているというような状況にないことは把握をしております。こういうものを含めて、地域と地域のニーズ、こういうものを調査して把握しながら、行政と地域と、それから交通事業者、ここが関係者集まって検討していくべきではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

確かに担当課のほうからの御説明がありましたように、第2次嬉野市総合計画策定に係るアンケート調査結果の中での状況におきましても、やはりこの公共交通に関しては「高齢者のためには巡回バスが必要である」とか、「乗り合いタクシーの範囲を拡大してほしい」とか、「市内どこにでも行ける小型バスを巡回させてほしい」など、いろんな要望、意見が出てくると思いますので、この分に関しては十分な検討余地がありますので、ぜひとも積極的に進めていっていただきたいと思う問題でもありますし、先ほど担当課の課長のほうからもありましたように、交通弱者というようなことがありましたが、この視点に沿ったような形にはなりますが、買い物対策、いわゆる買い物弱者と呼ばれていらっしゃることに、この件に関しても市長は選挙公報に関して記載されておまして、先ほどの担当課の説明とこの買い物対策、これに関して総合的にどう取り組んでいくビジョンがえられるのかということをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員御発言のように、買い物や病院といった日々の移動手段としての車、足というものは欠かせないものでございます。特に、まちの周辺部にお住まいの高齢者の方々にとりましては、自家用乗用車は日々の生活からは切り離せないものでありますし、一方で、高齢者の絡む事故も近年多発をしておるところでございます。そういう事故に遭遇するリスクも減らしていくという観点から、公共交通の利用環境を整えていくということは大事だというふうに考えております。

そのためには、やはり市民の皆さんや事業者、行政などの関係者の間で、まずは地域住民のニーズと現在の公共交通の実情を確認して、地域と事業者が行政と協働しつつ、役割分担をしていく必要があるというふうに考えております。

いわゆるバスの運行形態については、地域の地形や地域事情、いろいろあるというふうに考えております。地域コミュニティも、本来の役割というのは地域の困り事を解消するため

に発足した組織でもございます。そういった経緯も踏まえながら、例えば、地域コミュニティの中でバスを運行する運行計画を自身で決めてみるとか、その辺の地域の話し合いでぜひ地域に合った運行形態というのを決めていただければいいなというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

諸上議員。

**○2番（諸上栄大君）**

この件に関しては、私も昨年うれしの未来カフェに参加した際に、ほかの参加者からの意見で、コミュニティバスの運行というのもありましたけれども、コミュニティバスを使われている方が、このコミュニティ内での運行範囲であり、買い物など行くときにはその接続、エリア外の接続とかがなかなか難しいというところで、そういうのがぜひとも解消できるまちがいいなというようなことも話を受けました。やはりその方はすごく便利なことも話されていたんですけど、その反面、使い勝手が悪い面もあるというような意見でしたので、そういうところにはぜひとも配慮していただくような施策を推進していただきたいと思っておりますし、また、買い物対策の一環としては、ほかの市町村での取り組みなんですけれども、巡回バスの検討をされたりだとか、これは民間のスーパーや市内の商店街と連携した移動販売の検討、また、シルバー人材センター、これを有効活用して、仮に買い物応援隊というような形で、買い物のみを支援していただくようなことも取り組まれていらっしゃる市町村もありますので、そういうことを検討していただきながら施策を進めていきたいというのと。

それともう一点、高齢者生活再生支援事業、これが今かなり取り組まれていらっしゃるんですので、そのような協議体の中でも地域のニーズを出し合って、いわゆる買い物弱者対応をどうしていけばいいのかということを知恵を出し合いながら、自助、互助、共助、公助、この互助の部分の強化に努めていけるようなソフトなところも十分開発していかなければならない問題だと思いますので、この辺においては私も勉強させていただきながら、また執行部とろんな協議をさせていただきながら、嬉野に住んでいて、ああ、もう嬉野よかった、がんとこまで来てくんしゃつよとか、便利になってよかったと言われるような、ある意味、在宅生活を推進できるような交通網の整備というところも一緒に考えていきたいと思っておりますので、そういった施策に関してはぜひとも積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

それでは、次の質問に移りたいと思っております。

最後になりますが、観光戦略に関して、市長は周りを巻き込むニュー観光戦略ということ記載をされているようですけれども、具体的にどのような観光資源を、どれをどのようにマッチングして組み合わせた観光戦略をお考えになられているのかというところをちょっと

お聞かせ願いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

周りを巻き込む観光戦略ということでございますけれども、御承知のとおり、嬉野では嬉野温泉という最強のコンテンツを持っているというわけでございます。年間相当な方が宿泊をしていただいているわけでございますので、それだけの方が嬉野市内で足を一旦とめていただいているということでございますので、やはり宿泊施設を持たない周辺市町からは羨望のまなざしで、今、見られているということをまず念頭に置く必要があると思います。

じゃ、その足をとめていただいたところで何をお見せするのかということが、今、問われているわけでございますので、それはもう嬉野市だけで囲い込むということは非常に難しいことでもございますし、もっと嬉野市の外に広げて、いろいろなものを嬉野温泉に泊まっていた方に見ていただく仕掛けが大事だと。ある意味では嬉野温泉を西九州の文化、文物、農産物、いろいろなもののショールームとして位置づけてまちづくりを展開していく必要があるというふうに考えております。

例えば、一例を申し上げますと、今、有明海産のコハダ、すしネタになるコハダというのは築地市場で相当な高値で取引をされておるわけでございますけれども、地元の方はほとんど口にすることがないわけでございます。旬になったときに嬉野市の温泉の旅館でそういった旬のものを味わっていただく、旬のコハダを味わってもらおうというような展開の仕方でもできるわけでございますので、いろんな周辺市町の産物のPRの場としても嬉野温泉、嬉野温泉の旅館を活用していただけるように働きかけてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

先ほど市長答弁の中で、やはり嬉野と言えば観光、観光産業が一番メインになってくるだろうと私も思っております。その中で、観光に関してどのように進めていくかというのが今後大きな課題になってくるだろうとは思っています。

そういうことで、観光産業についてもいろんな施策を練って、ぜひとも嬉野にたくさんの方々が宿泊に来ていただくというような、そしてまた、嬉野に来た方々一人一人が嬉野のサポーターになっていただくような仕掛け、その1人の観光客の方が、今度は10人の観光客を連れてきていただけるような仕掛けづくりというのも今後はどんどん必要になってくるんじゃないかとは思っておりますので、ぜひともこの施策に関しては期待しているところではご

ざいます。

以上、市長の選挙公報から何点かお聞き、質問させていただいたわけではございますが、この中でも6点から7点市長が施策として記載されていらっしたこと、幅広い分野ではあったんですけれども、この中で、じゃ、市長が、じゃ、何から俺はやっていくんだと、どれに対して力をどんどんどん注ぎ込んでいくのかと、そういうふうな優先順位を立てるということではないんですけれども、そういうふうなお考えがあれば、ちょっとお聞かせ願いたいとは思っております。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えを申し上げたいと思います。

優先順位という質問でございます。各施策ともどれも密接に絡み合っておりますので、卵が先か鶏が先かという、そういう話にもなるわけでございますけれども、何よりやはり2022年というリミットが決まっております新幹線のまちづくりが今後の一番のスピード感を持って取り組むべき課題であろうというふうに考えておりますので、その中でどうやって新幹線を迎えるに当たって観光PRで存在感を高めていくのか、住みよいまちをPRすることで定住につなげていくのか、そういったさまざまな取り組みを複合させていながら、嬉野の未来づくりについて邁進をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸上議員。

○2番（諸上栄大君）

確かに優先順位はつけられない、スピード重視で対応していく。ただ、まずもって、2022年の新幹線、これがやはり一番の課題かなとは思っております。

きょうの一般質問で、市長の選挙公報における市長の市政に対する取り組みということをお聞きしたんですが、その感想の中で、やはり今後、私が思っているのは、多様化する市民の方のニーズに対してとか、山積みする課題に対して取り組んだ場合、市長がビジョンとして掲げていらっことは、やはり何遍も申しますように、各課を超えた横断的な対応、横断的な協働、これが今後は非常にキーポイントとなってくるところじゃないかなとは思いました。それに対して市長は、スピード重視、あるいは仕事に追われるのではなく、仕事を追う体制でということもおっしゃられているようでございますので、ぜひともいろんな課が協働して市民の福祉の向上に対して取り組んでいただくことを切にお願いして、私の一般質問を終了させていただきます。

○議長（田中政司君）

これで諸上栄大議員の一般質問を終わります。

引き続き一般質問の議事を続けます。

11番山口忠孝議員の発言を許します。山口忠孝議員。

**○11番（山口忠孝君）**

皆さんおはようございます。議席番号11番、山口忠孝でございます。ただいま議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

昨日3月11日は、あの東日本大震災から7年目という忘れられない日でありました。今なお、その傷は癒えておりません。その後も天災はあちこちで起こり、身近では一昨年の熊本地震、昨年の朝倉市の豪雨災害、つい最近では北国の豪雪被害、また、新燃岳の噴火など、人間の歴史はさまざまな天災や厄災と向き合っていかなければならないものだと痛感しております。幸いにして、本市においては大きな天災もなく、改めて住みやすいまちだと実感し、外に誇れるのではないかと感じております。

そういう中、本市におきまして、ことし1月に市長、市議選が行われ、新しい若い村上市長、市政が誕生しました。私たち議員も、市民から負託を受け、この嬉野市がいい方向に向かっていくよう努力しなければならないという、その重責を感じております。

人口減少社会を迎え、さまざまな課題が山積する中、村上新市長は、本定例議会開会時における市長提案理由の中で、著名な社会学者マックス・ヴェーバーの「職業としての政治」の本の中から、「政治とは、情熱と判断力の2つを駆使しながら、堅い板に力を込めてじわっじわっと穴をくり貫いていく作業である」を引用され、情熱と判断力をもって、地道に一步一步、力強い歩みを進めていく所存ですと決意を述べられておられます。また、その中で、先日、嬉野市地域防災計画の見直しに向けて協議したところ、2万7,000市民の生命、財産を守るという重い重責を自覚したところであるとも素直に述べられておられます。これら初心を忘れることなく、市政に精進されることを期待します。

それでは、質問に入りますが、新市長への質問ということで、先日の一般質問と同じような内容、また、似た内容になりますが、よろしく願い申し上げます。

まず最初に、今回の選挙の結果についてどう受けとめておられるか。また、今後、市政の運営をどのように進めていこうと考えておられるのか伺います。

再質問と以下の質問については質問席にて質問させていただきます。

**○議長（田中政司君）**

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（村上大祐君）**

それでは、山口忠孝議員の御質問に対してお答えをしたいというふうに思います。

今回の選挙の結果についての受けとめでございます。

昨年9月の出馬表明以後、4カ月余りの短い準備期間ではありましたが、次世代を

担う人づくりに重点を置いた施策、そして、35歳という若さ、そして、それから来る行動力、新しい発想、地元新聞社の記者としてこれまでの嬉野市の重要施策にも現場で立ち会ってきたといった経験もいろいろ御期待をいただいた結果だというふうに考えております。

ただ、短期間ということもございました。そういう意味では、市民の皆さんとの対話や政策面での浸透もまだまだ十分とは言えないというふうにも考えております。当選後のメディアでのインタビューでも申し上げましたとおり、早急に市内88行政区での対話集会を実施してまいりたいというふうに考えております。

そして、今後の市政の運営についてでございます。

議員のほうからも市政の方針演説についても触れていただいたとおり、基本としては、そういった所信表明で述べさせていただいたとおりではございますけれども、なかなか優先順位をつけてやるというのは先般から難しいというふうに申し上げてまいりました。ただ、私としては、合併されてことしで13年目ということになりますので、一体感を醸成するということを第一に考えてまいりたいというふうに考えております。

イベントも塩田町と嬉野町で今、参加者層が別々というような見受けも私の中では感じておるわけでございます。昨日も、塩田津の町並みの保存と活用を考えるフォーラムに私、出席をさせていただきましたけれども、熱心な塩田の地元の皆さんの参加というのは大勢いらっしやったわけでございますけれども、会場を見渡しますと、職員と議員を除く方の中には、嬉野からの参加というのは少なかったのではないかなというふうにお見受けいたします。それは、やはり私どもの努力が一層求められているものだというふうに考えております。

例えば、「塩田津川と町並み夢ぷらん」の中に、塩田津の目の前の浦田川の中に入って子どもたちが遊べるような場所にしたいという思いを語られておられたり、船を浮かべて塩田川流域一帯を遊覧観光できないかとか、いろんな地元の方は夢を語っておられるわけでございます。その夢の実現というのは、市民一体となって共有をしなければ実現をし得ないわけでございます。そういう意味でも、旧町の垣根を取り払って、お互い夢を共有して実現に向かっていく時期に来ておるわけでございます。

ですので、繰り返しになりますけれども、私どもの力量が問われているんだというふうに考えております。

そして、何より新幹線のまちづくりに関しても、繰り返しになります、2022年というタイムリミットが設けられておりますので、スピード感を持って取り組みたいというふうに考えております。この新幹線のまちづくりに関しても、癒しと健康のまちを全面に押し出した駅前構想ということで常々申し上げておりますけれども、これも旧町の垣根を乗り越えて、ぜひそのランドデザイン、基本の考え方を共有して、一緒になって、市民一体のまちづくりを進めていきたいというふうに考えております。

以上をもちまして、山口忠孝議員の御質問のお答えとさせていただきたいというふうに思

います。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

それでは、再質問をさせていただきます。

今、壇上より市長が語る述べられましたように、今回の選挙で、私は市長が青雲の志を持って、今回この選挙に臨まれたことだと思っております。これまで記者として、いろんな行政のほうを取材する立場であられましたけど、今回は取材される側に変わられたということで、そういうところをどのように感じておられるか、その辺の感想をちょっとお聞かせください。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えを申し上げたいと思います。

私の前職は、議員御発言のとおり新聞記者でございました。ただ、私も前職の時代から、無責任にあれやこれやというふうな批判をするというわけではなくて、常に自分の中に対案、そして未来への青写真を頭に描きながら物を言ってきたつもりでございます。実現不可能なことは提案をしてこなかったわけでございますから、そういう意味では、取材される側になったということでございますけれども、考え方、姿勢等に何ら変わるところはないというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

先ほどの壇上の答弁の中でも、私も一番気になったところは、合併から13年たちましても、いまだ、やはり塩田町、嬉野町、旧町のそういう意識がまだまだ、これはどうしても歴史的、私たちの世代もそうですけど、若い子どもたちが今、嬉野市になってどんどん育ておりますので、これは致し方ないところもあると思います。

ただ、これからに向けて、そういう取り組みはぜひ必要だと思っておりますけど、今回、選挙で市民の声、あちこち行かれて、いろんな方からも支援をいただいたと思えますし、いろんな方ともお話しをされたと思います。その中で、もう少し具体的にどういうものがあったのか、その辺のところがあればお聞かせいただきたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えを申し上げたいというふうに思います。

どんな声を聞いたかということでございますけれども、やはり新市になっての12年の振り返る中で、旧町意識というのがまだまだありますというようなことを正直におっしゃる方もいらっしゃいますけれども、ただ、やはり今、課題山積でございますので、市民一体となって今は取り組まなければいけないという点では、皆さん共通した認識を持っていらっしゃったというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口忠孝議員。

**○11番（山口忠孝君）**

それと、先日の一般質問の中でも、嬉野市の財政は筋肉質であるという市長の答弁がなされております。多分、いっぱいいっぱい今、財政が回っているという認識じゃないかと思うんですけど、今、これから市長が新しいいろんな、まだまだ就任されてから一月余りになりますけど、これからの話でしょうけど、これをどうやっていくか、自分の色を出していくか、これがこれからの課題になってくると思うんですけど、今のところ、そういういろんな思いが市長の中にもあると思いますけど、これをこれからどのように少しずつやっていこうと考えておられるのか、その辺のところをお聞かせください。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

恐らく財政運営の今後についての御質問かというふうに承ります。

私も自主財源については、急激な増加が見込めない環境にあるという現状はお話しをさせていただいているところでございます。そういう中で、どうしていくのかということでございますけれども、やはり国、県の交付金事業もたくみに活用していくことも求められているというふうに考えております。

現在、国のそういう交付金関係も、募集期間というのは非常に短くなっております。そういう意味では、補助金のメニューが示されたときに、いろいろ計画を練って動き出すというのでは遅いわけでございます。そういう意味では、もう今、走り出している中で国の最適な交付金事業を見つけて、そこに乗せていくというような、ある意味では走りながら次のバトンを探すというような、そういう時代で、スピード感が求められる時代にもなっております。それに対応するためにも、私も高くアンテナを張っておきますし、当然、全職員がそういった意識を共有した上で職務に励んでいただいているものだというふうに考えております。

さらに、なかなかその財源の中でも、民間資本の調達という点も大事だというふうに思っております。PFI方式の研究であったり、あるいは民間においてはクラウドファンディングという考え方もございます。そういう志に対して寄せていただける募金をもとに事業をしていくということでございますけれども、そういった志ある若い人たちであったり、そういうチャレンジしたい人を応援していけるように、私どもも考えてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今の市長の答弁の中に、いろんなさまざまな補助金、そういうのを走りながら見つけて今後に生かしていきたいと、そういう取り組みでやっていきたいということがありましたけど、それは市長個人が職員に対してそういうことをみんなで共有していかなければ、市の方向性としてはまとまっていかないと思うんですね。

それで、今後、今おられる職員の方の把握とか掌握、その辺のところをどのように今後進めていかれるのか、その辺のところを少しお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

就任1カ月を過ぎたところでございますけれども、職員とのコミュニケーションも徐々にとってまいりますけど、確かに議員の御発言のとおり、全ての職員とのコミュニケーションを密にやっていくことは大事だというふうに考えておりますので、今後いろんな形で私も、私からコミュニケーションをとっていきような形にしていかなければいけないというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

それでは、今の職員とのコミュニケーション、市政の運営についてなんですけど、副市長にひとつ、市長がこれからやっていかれる上で、どのようなふうなアドバイスといたしますか、そういうのがあればお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（田中政司君）

副市長。

**○副市長（中島庸二君）**

お答えいたします。

突然の質問でございましたので、的確な答えになるかどうかわかりませんが、今、市長おっしゃいましたように、まず職員のコミュニケーションというのが非常に大事だと思いますし、実際、最近の部課長会議でも実際そういう形のお話をされることが非常に多くなりました。できるだけ自分の考えを伝えようという姿勢を見せておられます。そういうのが特に大事だと思いますし、また、若い職員は若い職員なりに、やっぱりどういう方だろうということがまだよくわかっていないんじゃないかと思いますので、できるだけ部課長会議の話をして、皆さんに伝えていただければと思います。

それと、職員間のレクリエーションとかいろいろもあるわけですが、そういうのにも積極的に参加をされまして、そういう形で動いていただければいいんじゃないかと思います。

いろいろあるかと思いますが、これは逆に提案なんかもありますので、職員の提案でどのようにしていただきたいかというのを少しアンケート的なもので募集するのも手じゃないかと思いますので、今までとは若干違ってくると思いますので、ぜひ市長の気質なり、あるいはそういうのがわかって、こういう提案をしてくださいとか、こういう仕掛けをしていただけないでしょうかという提案をしていただければいいんじゃないかかと思っています。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口忠孝議員。

**○11番（山口忠孝君）**

今、副市長が述べられましたように、本当に市長もまだ1カ月余りでございますので、これからですよ。これからしっかりと職員の皆様方と一体となって、新しい嬉野市のまちづくりに励んでもらいたいと思っております。

それでは、先ほど市長の壇上の答弁の中に、対話集会を開きたいというお話がありましたけど、大体いつごろそれを開催するのか、予定があらればお聞かせいただきたいと思いますが。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

現在、日付、場所が決まっているところはございません。4月初頭の行政嘱託員会において希望の日程を聞いた上で、その辺、農繁期、茶業の繁忙期に入ってまいりますので、その合間を縫ってなのか、その後になるのかはちょっと不透明な部分ございますけれども、順次、

受け入れ体制が整ったところから順番に出向いて御説明をしたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

そうですね、そういう市民の声をまずは聞いて、また、市民のほうも新しい市長に期待しているところも高いと思いますので、それらのところをしっかりと取り組んでやっていただきたいと要望しておきます。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

どのようなまちづくりを考えているのかという質問でございますが、これもいろいろ、これまで一般質問で小さいところまで質問されておりますけれども、私もざっくりとお伺いしたいと思っておりますので、同じような質問になるかと思っておりますけど、よろしく願いいたします。

まずは、農業や商業、大きく言えば産業と考えてもらってもよろしいですけど、現状を踏まえて、これからあるべき課題とかそういうものがあられば、その辺のところをお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

農業についてですが、すみません、同様の質問がありますので、ちょっとかぶって申しわけないんですけども、塩田のほうでは水田農業、嬉野のほうでは茶業を主体として営農活動が続いているということでございますので、基本的には、コストを省力化などで圧縮しながら、高品質で多収量というような基本路線で県やJAとも連携して、そういう栽培技術の向上であったり品質向上に向けて努力をしまいたいというふうに考えております。

嬉野市産に対する農産物への熱視線が今注がれている中でございますので、そういう、いわゆる販売戦略までしっかりサポートをすることで、この農業、嬉野市においては成長産業として位置づけてやっていけるものだというふうに確信をしておるところでございます。

商業につきましても、非常に商店街の活性化であったり、結構自営業者の方もやはり多い土地柄でございます。そういう意味では、4月から地域産業支援センターの紹介で、嬉野文化センターに中小企業庁のよろず支援拠点のサテライトオフィスを開設する方向で今、進めております。このよろず支援拠点を活用していただいて、例えば、ウェブページのデザインを一新したいとか、商品パッケージを一新したいとか、そういった企業さんの持つさまざま

な悩みや課題に対応した解決策を提示したり、経営革新につなげていただくことで、よりよいそういうお仕事ができるように、私どもも支援をしてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

いろんな今、思いがあらわれて、そういうこれからの取り組み、いろんな提案などあらわれると思います。

一番課題なのは、私は農業にしても商業にしても、やはり後継者の問題だと思うんですね。なかなかこれは行政がどうのこうのじゃなくて、やはり社会とかそういう家庭的な、個人的な問題もありますので、一概には言えないと思うんですけど、そういうところをやはりいかに継続していくか、事業の、個人の自営業者を育てていくか、これが地域をつくっていく、そういうことにつながっていくと思うんですけど、その辺のところをぜひ視点を変えてやっていただきたいと思っておりますけど、その辺のところはいかがでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

後継者育成が重要ではないかという御指摘、私も同感でございます。そういう中で、後継者として身を立てていこうというふうに思っていたくには、やはり将来展望が描けるかどうか、農業にしても商業にしても、同じことではないかなというふうに思っております。

そういう意味では、私どもの支援のメニューの充実ももちろんのことではございますけれども、やはり製造であれば、販売までのそういった支援をいろんな角度からサポートしていくような体制を整えていくことが大事でございますので、その一番のよき相談役となるのが、一番身近な市役所であるというふうに理解をしておりますので、今後とも後継者育成に対しても担当課と連携して、担当課が主体となって各機関と連携してやっていくものだというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今述べられたように、ぜひ現状をしっかりと把握されて、当事者と話し合いしながら、しっかり今後の対策を立てていっていただきたいと要望しておきます。

それでは、次の観光についてお伺いいたします。

この中で私が気になっておりますのは、今、嬉野市は、以前から今度2020年の東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン、これは嬉野も受けているんですよね。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

はい、そのとおりでございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

それともう一つ、2020年東京オリパラの首長連合、それにも入っておりますよね。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

そのとおりでございます。（「どこが担当かわかりますか」と呼ぶ者あり）

○議長（田中政司君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（中野哲也君）

お答えいたします。

スポーツ振興の面で、文化・スポーツ振興課のほうで担当をさせていただいております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、文化・スポーツ振興課のほうで担当していますが、ずっと継続されるんですよね。

○議長（田中政司君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（中野哲也君）

この事業につきましては、オリンピックまで継続するものと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

予算が今回、骨格ということで上がっていなかったもので、ちょっと気にはなったんですけど

ど、ホストタウンのこともありますし、そういう意味で、嬉野市としては、そういうホストタウンのいろんな事業を活用して観光に結びつけていける施策を考えておられるんじゃないかなと私は思っているんですけど、その辺のところはいかがでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをいたします。

そういうオリンピック・パラリンピックを契機に観光振興を図っておられるかという、そういう御質問であるというふうに承ります。

当然、私どもとしましても、オリンピック・パラリンピックというのは、国内開催というのはもう本当に今度はいつになるのかわからない千載一遇のチャンスであるというふうに考えております。

既にナショナルチームが国際大会を前に嬉野市に宿泊をしていただいた実績もございますので、そういったトップレベルの選手を見に来る方もいらっしゃるし、そういった方が利用したということであればということで、次なる宿泊地としての選定を受けやすいという側面もございますので、ぜひともオリンピック・パラリンピックを一つの大きなチャンスと捉えて、全力で観光振興にもつなげてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、文化・スポーツ課長お見えになられているので、オリパラの首長連合ですね、その辺のところをもう一回、今どうなっているかをお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

今、オリパラ首長連合、負担金を払ってございまして、東京新虎通りのあたりに店舗を出すというふうなこともできるということで、そういうふうなことになっておりますけれども、これは当然、観光面、それから、農産物を出すとか、いろいろその辺は計画を立てて出店をしなければなりませんし、そういうところに出すにも、ほかの首長連合の方々が今、出されておりますので、順番とかもあります。そのあたりを考慮しながら、出店等に向けて計画をしていかなければならないかと思っております。

昨年については、そういうふうな出店等はいたしてございません。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、オリパラ首長連合のまちが、そういうまちづくりにこれを生かして、そういうところに自分のまちを売り込んで、企業誘致、いろんな、もちろんスポーツの合宿もそうでしょうけど、そういう売り込みを図って、そういう活動をされているという情報を聞いております。せっかくの機会ですから、嬉野市もぜひそういうところに嬉野市を売り込んで、そういう、どうせ向こうのほうでブースか何か構えて嬉野市のそういうあれをされるとお思いますので、ぜひそういうものを、せっかくの機会ですので活用して、ほかの市町も大きいところはそういうところも戦略的にやっつけらっしゃるところもございますので、嬉野市も負けずに利用されたいと思いますので、ぜひその辺のところ、市長も今後いろんな、これから担当課の話もあると思いますので、その辺のところ話し合いをしてお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをします。

議員御発言のとおり、私も同感でございますので、努力をしてみたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

ぜひよろしく願いしておきます。

次、3番目ですね、健康や福祉問題について、このことについて、少し市長の考えをお伺いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

健康福祉、非常に範囲が広範ではございますけれども、やはり高齢者、高齢化率が高まっている状況でございますので、そういう中で、先般より質問もあつています高齢者の福祉、介護の問題であったり、そういう移動支援、日々の買い物の支援という形で生活支援の体制

整備というのも大事だというふうに考えております。

その一方で、高齢者施策だけではなくて、健康づくりということであれば、もう本当に子どもから高齢者までということで、幅広い取り組みが必要となってまいりますけれども、やはりスポーツも積極的に取り入れて、小さいころからスポーツの習慣をつけることで、強い体をつくってもらう。そして、介護が必要とかそういう話になる前に、50代、60代、働き盛りのうちに体をつくっていただければ、転倒したり骨折をしにくいというような、そういう意味でも、老後に備えた体づくりも大事なわけでございます。

そういうスポーツという一つの横串を通した健康づくり政策というのも大事で、縦串を通すというのも大事ではございますし、働き盛りの世代に焦点を当てれば、なかなか健診に行かない、自分の健康に無関心であるというような方もいらっしゃるようにも見受けられます。決して心底から無関心ではなくて、そういう暇もないとか、そういう方もいらっしゃるんではありましようけれども、やはり自分の健康は自分で守るという意識を持ってもらう一つのきっかけづくりとして、健康マイレージ制度の導入であったり、いろんな角度で健診率向上にも努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、るる答弁いただきましたけど、やはり嬉野市は健康に関しましては結構、よその市町と比べましても手厚い施策がなされているところとは思っております。これからもいろんなそういう、先ほど市長も答弁されましたけど、複合的な、高齢者だけじゃなくて、子どもたちとか、にぎわいとか、以前述べられておりますけど、そういう複合的な、こどもセンターもしかるべきでしようけど、私もそういう複合的な施設というか、そういう体制というかな、そういうのはこれから本当に大事になってくるんじゃないかなと私も思うところでございます。

ただ、それをやるにしても、いろんな問題、クリアしなければいけない課題は多いと思っておりますけど、ぜひそういう今、市長が考えておられますように、やはりこれからは単独で事業を起こすんじゃなくて、やはりいろんな複合的なものが絡んできて、そういうふうにしてやっていかないと、事業が縦割りではできないので、その辺のところをぜひそういう、今やっていただきたいと思っております。

その辺のところを、もう一度市長、お聞かせいただきたいと思っております。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

当然、そういった施策を同時並行で進めていく必要があるかと思しますので、そのために、部長というポストもご置きますし、私も含めて各課の取り組みをうまくつなぎ合わせて、効果的に事業を方向づけするというのが本来の仕事だというふうに考えておりますので、しっかり研さんを積んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口忠孝議員。

**○11番（山口忠孝君）**

そういうことで、これからのまちづくりですよ。こういういろんな問題が山積しておりますけど、ぜひしっかり取り組んでいただきたいと思っておりますけど、今、福祉のところでも述べられました。これから高齢化、人口減少社会、こういう時代に入っていくと思うんですよ。それで、これからいろんな施策を展開されると思うんですけど、ただ、これからは施策をいろんな述べるだけじゃなくて、市民の意識、これを変えてもらわないと行政はやっていけないんじゃないかなと私も感じるころがございます。

そういう意味で、これから市長がいろんなされるでしょうけど、市民の意識を変える、具体的に申しますと、今、市のほうでも公共施設の整理、どこの市町もこれからいろんな財政的なものもございまして、公共施設の統廃合問題が出てくると思うんですよ。そういうところなんかは特に、当事者の地区の方は、自分のところといたらやはり抵抗がありますよね。しかし、財政的なもの、いろんなせざるを得ないという、そういう意識がないと、やっぱりできないじゃないですか。やはり自分の利益ばかり、住民は何でも、多分、今回の選挙に関しましても、いろんな要望というか、自分たちのああしてもらいたい、こうしてもらいたい、こういうふうに話があったと思うんですけど、全部できるわけがないですよ。財政というのは限りがありますので。

そういう意味でも、やはり市民の意識を変えてもらう、そういう施策も取り入れていかないと、これからの市政を運営していくにはやはり厳しいんじゃないか。その辺のところはどのようにお考えでしょうか。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

かつての成長が限りなく続く、そういう時代における考え方と、今は、ある程度やはり縮小、均衡も考えていかなきゃいけない時代。確かに考え方においては転換が求められるのも現実ではないかなというふうに思っております。

私ども行政といたしましては、市民にそういう意識の改革を迫るといのはいささか上から目線な部分もございますので、ただ、私どもとしては、今の財政状況をしっかりつまびらかに開示をした上で、できることとできないことというのを懇々と対話を重ねていく、対話と納得を基調にしたコミュニケーションをしっかりとれば、市民の皆様は必ずわかっていただけというふうに私は考えておりますので、やはり繰り返しになりますけれども、対話を重視してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、対話を重視していきたいとおっしゃっておりますので、その中で、そういう本当に行政のこれからのあり方を、やはりしっかりと包み隠さず市民の皆様と話し合って、これからやっていただければなと思います。

それで、嬉野も若い人が外に出ていく人が多いんですけど、先般、平昌の冬季オリンピックがありまして、カーリング女子のチームが銅メダルをとられました。皆さん御存じだと思います。テレビで私も見ましたけど、その中で、女子の選手の方が地元に戻ってインタビューの中で話されたことなんですけど、この田舎の常呂町の小さい町の中、小さいころは、ここに何も、夢もない、何も無い町だと思っていたと。でも、この町にいたから夢がかなってオリンピックで銅メダルをとることができたと、そういうふうにおっしゃいましたよね。私、それを聞いて、これが一番大事じゃないのかなと思うんですよ。今の私たちも、この嬉野のまちに関してそういう意識があるんですけど、やはり地元で何とかそういう夢のあることをできたら、皆さんまた注目するんじゃないかなと、そういうまちづくりをしっかりとやってもらいたい、私はそう思っております。

よく言うじゃないですか、サケは子どもが生まれ、川を下って海に出て、また自分の産まれた故郷に戻ってきますよね。子どもたちもそういう形で、やはり嬉野に戻ってくる、そうしないと人口はふえませんよね。ロボットはふえるかわかりませんが、いろんな人が足りないから、いろんな人工知能、さまざまありますけど、やはり人がふえないことには、このまちの存続はないと思いますので、ぜひそういうところをしっかりとやっていただきたいと要望しておきます。

これは答弁いいです。

次行きます。次、教育問題に移らせていただきます。

教育長に質問をいたす前に、今回、さきの臨時議会で教育長にまた再任されまして、その辺のところの感想じゃないですが、長いことと言うと失礼ですけど、19年から教育長をされて、また今回、市長が変わられましたけど、今回また市長からの指名を受けて、教育長とし

て、その辺のところの思いをお伺いできればと思いますけど。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

お答えをいたしたいと思いますが、ただいま山口議員が口にされましたように、非常に長くなっておりますけれども、初心に戻って嬉野市の子どもたちを、宝を磨いていく気持ちでお受けをいたしております。

特に教育行政の部分の責任者ということで今回はお受けすることになりましたので、そういった意味では、非常に責任を大きく今まで以上に感じているところでございます。そういった意味で、教育長というふうなことで最初からお伺いしましたので、随分悩みましたけれども、しばらくはさせていただきたいというように思っております。そういう感想を持っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

ありがとうございます。この議員の中にも先生の優秀な教え子さんたちがいらっしゃいますので、よろしく願いいたします。

それでは質問に移ります。

まず、佐賀県が12月に実施した平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果についてお尋ねいたします。

一応資料を請求いたしまして、資料をもらっております。この結果について、まずどのような御感想を持たれたのかお聞かせいただきたいと思います。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

佐賀県小・中学校の学習状況調査の結果についての感想をということでございますので、お答えを申し上げたいと思いますが、佐賀県学習状況調査は、昨年12月5日、6日の両日に全県下小・中学校で実施をされております。学年としましては、小学校4年から中学校2年までの5学年で実施をされたところでございます。

その結果が1月中旬にそれぞれの市町のほうに通知をされましたので、その結果によりますと、嬉野市内全体として見た場合には、県平均と比較しておおむね良好な状況にあるものと感想を持っております。

具体的には、資料でお示しした内容でございます。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

これはあれですかね、公表はしないということで、一応各学校にも通知は行っているんですかね。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

お答えをしたいと思います、公表は学校に通知をするということで公表をしております。各学校には行っております。教育委員会にも来ておりますので、教育委員会のほうでこういう冊子にしまして、各学校の校長宛てにそれぞれ分析をしたものを届けております。したがって、どこの学年がどこの分野で落ち込んでいるか、伸びているかというのを把握できるような内容で通知をしているところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

これは毎年あっていると思いますけど、そう大きな変化といたらおかしいですけど、状況というのはもう変わらない状況なんではないでしょうか、どうなんでしょう。よくなっているとか、変わらないか、ちょっと悪くなっているとか、そういういろんな分析もあると思いますけど、その辺のところはどのような状況でしょうか。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

分析の過去と現在ということでお答えしますと、過去は県平均よりも下の傾向もございました。今回の場合は、おおむね良好というのは、県平均よりも上のほうであるというふうに理解をしていただいているのではないかと。表現した中に県平均を上回るという部分もございましたけれども、そこら辺については4%以上と。大きくというのも表現をしておりますですね。大きくというのは5%以上ということでございますので、そういった意味で、数値的にはなかなか公表はできない状況もございます。

したがって、小さい学校では個人を特定されるという部分もございまして、各学校の状況も、教師側から言わせれば、一人一人の先生の勤務評定等にもなっていく可能性もございまして、そういった点では、各学校はそれぞれのPTAの役員会であるとか学校通信である

とか、そういうもので4月に実施している内容とともにお知らせをしているところです。

以上のような形でお答えさせていただきたいと思います。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、教育長のほうから、過去と比べたら向上している、そういう御答弁がございました。それで、今いろんな学校、小学校の子ども学校塾かな、中学生は放課後補充学習ですね、そういうのを取り組んでおられますけど、そういう成果もこういう結果にあらわれてきていると考えるとよろしいのでしょうか。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

学力の伸びの要因といいたいでしょうか、そういうものでお答えをしたいと思いますけれども、4年前につくりました嬉野市教育大綱ですね、ここら辺にも施策として挙げておりますけれども、私どもとしましては、やはりこの大綱に挙げている中に、大きく「生きる力を育む学校教育の推進」というものがございます。その中で、確かな学力の育成を挙げておりまして、この中で、いわゆる学力向上を中心としたものを挙げております。そして、それにあわせて、やはり心の教育も大きく必要であると。さらに、基盤となるところでいきますと、体力の育成も必要であるということで、いわゆる知・徳・体がバランスよく伸びていて初めて学力向上につながるものというふうに思っておりますので、そういうことからすれば、今やっというんではないでしょうか、ここ数年で少しずつそういうのがかみ合ってきている部分がございます。

具体的に申し上げますと、私はマンパワーを入れて学力を高めていくというのが嬉野方式ではないかなというようなことで、先ほど議員が言われましたように、小学校の学校塾事業でありますとか、中学校の補充学習指導でございますとか、そういったものについては、非常に即戦力として基盤、底辺の向上につながってきているものではないかというふうに思っているところです。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、先ほど教育長の答弁の中に、知・徳・体ですね。

それで、徳のことに关しましては、今年度から道徳が特別教科という形で授業の中に取り入れられてくることになっていますよね。それとまた、英語の授業に関しても、20年度からは正式に5、6年生に授業として取り入れられてくる予定になって、今は試行期間としてい

ろんな取り組みを今、英語に関しても取り組まれておられると思います。

一つ聞きたいのは、小学校で今、4教科、国語、社会、算数、理科で学力のテストがございましたけど、これが英語も教科になってきたら、やっぱり小学生でもそういう平均とか、そういう学力テストも入ってくるんですかね。そういうところは、先のことでなかなか答えにくいでしょうけど、教科としてそういうのがあれば、そういうのも学力の一つになってくるのかなと思ってお尋ねですけど、どうでしょうか。わかりますかね。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

先のことで非常に言いにくいかも知りませんが、私、個人的な考え方としては、小学校も英語の教科として取り扱ってまいりますので、評価もあるわけですので、将来的には中学校では英語も入っておりますので、正確に言いますと外国語（英語）なんですけれども、ということで、英語のいわゆる小学校のほうに追加されると。今のところは国語、社会、算数、理科ですもんね、小学校では。それに英語も将来的には入ってくるものと思います。

ただ、しばらくは、まだまだ担任の先生が授業を基本的にはされるという部分がございますので、そういうことからいけば、すぐということじゃないんじゃないかと思いますが、そこら辺について、現場あたりでの声を聴取されながら県でも取り組んでいただくのじゃないかなと思います。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

ありがとうございます。それで、今先ほどから申しておりますように、道徳の教科、英語の授業ですね、そういうのが入ってくる中で、先日、佐賀新聞なんですけど、2月20日の新聞に私、これを見まして、藤原正彦さんですよ、「国家の品格」で有名な数学者なんですけど、この方が、読書は将来、必ず役に立つと。これはこれで、私もちょっと読ませていただいて、なるほどだなと思っておりましたら、図書館に行ったら、文藝春秋の中に、「小学生に英語を教える国滅ぶ」、こういう、ちょっと衝撃的なタイトルなんですけど、今、英語を国策と言うぎ失礼なんですけど、そういう形で今、取り入れておられますけど、こういう考え方もあるんですよ。授業をとられるということの子どもたちの。だから、別に今すぐどうのこのしなさいじゃないですけど、こういう考えもあるということをぜひ頭の中に入れていただいて、いろんな施策も、先ほどから教育長も心の生きる力、そういうものを大事にされておられると思います。やはりそういう心の涵養には、こういう読書とか、そういうものが一番重要だと私も考えておりますので、そういう外国語の話も大事でしょうけど、グローバル化と

かいろいろそういう、聞こえはいいんですけど、この中にも、あと10年したら、今、スマホの中に翻訳機能が、英語に限らず外国語のそういう機能が全部埋め込んでできるから、もう話すだけだったらそういう道具ができてしまうから、今、一生懸命英語の教育をやっているけど、無駄——無駄と言ったら失礼ですけど、それよりも、やはりもっと考える力、生きる力、そちらのほうをしっかりとやっていただきたいと。藤原さん、この著者もおっしゃっておられますし、私もそう思います。その辺のところを教育長にも、ぜひ今回もしっかりとやっていただきたいと思っておりますけど、いかがでしょうか。

**○議長（田中政司君）**

教育長。

**○教育長（杉崎士郎君）**

お答えをしたいと思いますけれども、読書については、いろんな説もございます。そこに言っていらっしゃいますように、いわゆる読書は知識の宝庫であるというのがありますし、人生そのものであるという方もいらっしゃいますし、それから、外国語をしたら国が減びるというお話もありますし、それぞれの御立場で述べられていることでもありますので、もっとも、尊重しなければいけないと思っております。

ただ、私どもは、あくまでもいわゆる学習指導要領にのっとって義務教育——初等、中等教育を進めていくわけでございますので、いわゆるそれに基づいた達成度目標がございますので、そういうものを目標にしながらやっていきたいというふうに思っています。意見としては十分周知をした上で取り組む必要があるかと思っておりますので、変な方向に走ったりなんかするつもりは毛頭ございませんし。

ただ、今、世界的な流れとしては、AIの世界になってきています。今の職業の半分ぐらいはなくなると。子どもたちにどういう力をつけていったらいいのかという部分では、不易と流行の部分もしっかり見ながら、不易の部分としてはどういうものを残していくのかという部分と、それから、流行の部分はどういうものを取り入れていったらいいのかということあたりが、2020年から始まる学習指導要領の中で打ち出されてくるわけでございますので、それをしっかりと踏まえて取り組みをしていく必要があるのかなというふうに思っております。

以上、お答えしたいと思います。

**○議長（田中政司君）**

山口忠孝議員。

**○11番（山口忠孝君）**

今、教育長がおっしゃられたように、教育長も豊かな経験を持っておられますので、それを生かして今後の教育行政にしっかりと取り組んでいただきたいとお願い申し上げます。最後の質問になります。文化財について少しお尋ねいたします。

ここに書いてありますように、間もなく開館予定の嬉野市うれしの茶交流館に、古陶磁器等の文化財の展示は考えているかという質問でございます。

この問題は、私、あそこの資料館ができるころに、そういうお茶だけではなくて、いろんな嬉野市の歴史的なもの、文化財的なものも展示するものだと考えておりましたので、その辺のところは今どうなっているのかなと思って、その辺のところをお伺いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

うれしの茶交流館チャオシルでございますけれども、茶業を軸とした嬉野の歴史を紹介し、発信する場所というふうに私も考えておりますので、お茶と関連の深い陶磁器についても紹介をできるように、今準備を進めておるところでございます。

これまで、不動山とか内野山といった歴史的にも高い窯跡を有していながらも、市民はもとより観光客の皆様に向けて広く語られる機会がなかったというふうに私も認識をしております。そういった企画展の開催も検討しながら、ぜひとも嬉野市の誇りとして情報発信をしてみたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

わかりました。私もせつかくの施設ですので、そういういろんな意味で活用していただければと思っております。

それで、これも新聞の記事なんですけど、（資料を示す）「古武雄」という焼き物の、これも佐賀新聞の記事です。「魅力再認識する仕掛けを」とあります。武雄のほうがそういう古陶器の「古」、私たちは古伊万里とか有田とかそういうのがありますけど、古武雄と言われても、ちょっとぴんとはこなかったんですが、最近、武雄地区でそういう地元の、武雄の昔あった焼き物が今でも少し残っているということで、そういうのを展示を、古武雄という一つの名前をつけて武雄市が売り出そうとしておられるし、先日、人間国宝の中島宏さんがお亡くなりになりましたけど、あの方も九州陶磁文化館に自分の持っているコレクションを寄贈されて、そういう大きな財産としてされております。

それで、嬉野市にもそういう古陶磁器を持っている方がおられると思います。それで、私もその方にお会いして、そういうお話を聞いたんですが、寄贈ですね、嬉野市に自分が持っている、そういう江戸時代のものですから、それは本当に学術的にちゃんとした資料館に展示できるような品物だと思います。そういうのを、そういうお話もあって、多分、

嬉野市からも前市長とか観光課長とか一度行かれたというお話をお伺いしました。それで、私も早速、資料館ができるから、そちらのほうに展示するのかなという思いで、ちょっと勘違いというぎおかしいですけど、そういう思いでしたので、今回、こういうことをお聞きしたんですけど、今後、市長も今、先ほど答弁の中で、そういうものも活用したいという話があるなら、そういう貴重な文化財としてのあれをしっかりと、もしそういう話があったら、仮定の話で申しわけないですけど、そういう寄贈を受けるという話があれば、それはもちろん市の財産としてそういうところにしっかりと保存して展示していきたいという考えはありますでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

当然、そういった大事なものでございますので、所有者の意向を十分に尊重したいというふうに考えております。

そういう中で、御寄贈をとということであれば、受け入れ体制についても担当課連携して、県、その辺の受け入れ体制の協議については行ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

それで、ここに嬉野の焼き物展（資料を示す）という記録誌が、これは平成10年に冊子ができております。この中にも、いろいろ希少な嬉野のあちこちに持っていらっしゃる方がいらっしゃる、それをまとめた、そういう展示会があったと思うんですよ。そういうのもぜひ、本当に嬉野市のそういう隠れた宝物じゃないですけど、そういうものが現に現存していますので、そういうのも観光とかそういう目玉として、いろんなそういう光を当てて、嬉野市もこういう歴史があるんだと、ただ、100年じゃなくて、200年、300年、400年ぐらいの前の焼き物も少しは残って持っていらっしゃいますので、ぜひそういうふうな活用をお願いしたいと思います。

教育長も、何かそういう文化財に関しては、いろんな活用というかな、私も以前からそういうことにもう少ししっかり取り組んでいただきたいと思いますと思うけど、なかなかいろんな財政とか施設とか、そういうものもありますので、なかなか厳しいところあると思いますけど、そういう観光とか、そういうものにも組み合わせて文化財を生かすという、そういう取り組みを何か考えがあられましたら、一言だけ。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

教育長という立場で申し上げますと、保存管理が中心でございますので、むしろ観光というよりも、いわゆる学術的に有能なものについては保存をしていくと。あわせて観光ができれば、なおいいなというふうに思っております。

したがって、この茶交流館よりも、むしろ陶磁会館みたいなのができれば、もっと幅広く、今、口にされました、いわゆる不動山、内野山窯だけじゃなくて、吉田白焼も含めた形の文話あたりがあれば、非常にそこ、資料館がありますけれども、いわゆるもう一つ専門的なものがあればいいなと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

山口忠孝議員。

○11番（山口忠孝君）

今、そういう施設があればということですが、今、いろいろ体育館とかいろんな施設、大型施設もできておりますし、なかなか今すぐそういう計画も厳しいんじゃないかなという、私も思いがありまして、そういう今、既存の施設を利用して、そういう活用もしていただければと今後お願いして、私の質問を終わりたいと思います。

以上ですが、終わりに一言。

今議会を最後に退職される職員の皆様方には、長年の労に感謝を申し上げるとともに、現職の方々には、新しい市長とともに新しい嬉野市の歴史をつくっていかれることをお願いして、私の一般質問を終わります。

以上です。

○議長（田中政司君）

これで山口忠孝議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中ですが、ここで13時ちょうどまで休憩をいたします。

午後0時 休憩

午後1時 再開

○議長（田中政司君）

それでは、休憩前に引き続き一般質問の議事を続けます。

10番辻浩一議員の発言を許します。辻浩一議員。

○10番（辻 浩一君）

議席番号10番、辻浩一でございます。今回の改選によりまして、33回目の登壇の機会をいただきましたことを感謝申し上げ、任期中、真摯に議員活動を務めることをお誓い申し上げます。

さて、村上市長におかれましては、新人同士の一騎打ちの激戦を制し、当選の栄を遂げられましたことをお祝い申し上げますとともに、人口減少という厳しい時代のかじ取りとなりますが、その若い英知と行動力で嬉野の新時代を切り開いていくリーダーシップに期待をしております。

嬉野市議会は会派制をとっておりません。採決は個人の責任において行います。事案によってはオール与党であるとともに、オール野党になることもあり得ますが、したがって、二元代表制の本質を踏まえ、市民福祉の向上を目指し、執行部と議会が切磋琢磨し、嬉野市の輝かしい未来のためにお互いに努力してまいりましょう。

それでは、議長の許可をいただきましたので質問を行います。

今回の質問は大きく3点であります。

まず、1問目として市長選の公約の中で掲げておられる雇用創出についての所感をお尋ね申し上げます。

次に、嬉野市は今まで人に優しいまちづくりを掲げ、ユニバーサルデザインの推進をしてきました。今後の展開についての所感をお尋ね申し上げます。

最後、市道整備についてお尋ねを申し上げます。

市道の整備については、要望の多い事案だというふうに思っておりますけれども、安全性の早期確保の観点から、特に山間地域の市道整備についての所感をお尋ね申し上げます。

再質問は質問席にて行います。

**○議長（田中政司君）**

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（村上大祐君）**

それでは、辻浩一議員の御質問に対してお答えをさせていただきたいと思います。

まず、雇用創出の考え方についての御質問でございます。

人口減少社会に対応した次世代を担う人づくりこそが、嬉野市のこれからのまちづくりを進めていく上で、非常に重要であるというふうに考えております。そのためにも、企業誘致を嬉野らしい木材、食品であったり、食品加工工場ということの的を絞った企業誘致であったり、嬉野温泉駅にできます企業誘致ビル、そちらを活用してITや事務系の企業誘致を積極的に進める一方で、地場企業への支援、そして、起業支援などの施策にも取り組み、嬉野にいながらして働くことができるよう、多種多様な仕事の創出に力を入れてまいりたいというふうに考えております。

ユニバーサルデザインについての御質問でございます。

公共施設のユニバーサルデザイン化については、障がい者、高齢者などに配慮してバリアフリー化を推進しているところでございます。嬉野市といたしましても、全国ユニバーサルデザイン大会を開催した経緯もございます。日本一のUD、ユニバーサルデザインのまちを

標榜している以上、ぜひとも今後ともソフト面においても、心の優しさ、思いやりの精神とあわせて取り組みを推進してまいりたいというふうに考えております。

市道整備の考え方についてでございます。

安全性の確保についてでございます。

本市における市道の状況について申し上げます。路線数については、議員御承知のとおり600路線を超え、延長につきましては、おおむね300キロメートルを抱えている現状となっております。質問の趣旨は、道路改良事業のことで存じますけれども、単独事業はもちろん、社会資本整備交付金事業、合併特例債事業を駆使して、でき得る限りの整備をいたしているところでございます。

しかしながら、路線も多く、財政的な事情もあり、御期待に添えないところも承知しておるところでございます。今後とも知恵を絞りながら、でき得る限りの努力をしてまいりたいというふうに考えております。

以上をもちまして、辻浩一議員への御回答とさせていただきます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

この公約に関しましては、金曜日からずっとあっておりますので、重なる部分が多いかと思っておりますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

まず最初に、雇用創出の考え方については、先ほど市長のほうから答弁いただきましたけれども、企業誘致ビルでの誘致に関してですけれども、これは継続でございますので、担当課にお尋ねをしたいと思っておりますけれども、こういったことを言うては非常に失礼なことになるんですけど、7年前の東北の大震災、あるいは北部豪雨、いろんな災害があることにおいて、安全性の確保ということで、災害のリスクが少ないようなところに企業のバックアップ機能とか、そういったものを移すというふうな流れがあっているような気がするんですけども、そこら辺について、担当課としては察知しておられるかどうか、その流れについてお尋ねを申し上げます。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

議員御発言のとおり、大震災の折に企業としては事業をとめるわけにはいかないということから、事業継続計画、これBCPといいますけれども、これが非常に注目をされました。そういう事業を継続するために、地方に企業側がちょっと目を向けているというところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

そういったチャンスといったら語弊があるかもしれませんが、そういった流れの中で、企業誘致ビルの建設については決定していることですので、しっかりと間断なく、そのビルが埋まるような企業誘致に努めていただきたいというふうに思っておりますが、それプラス、嬉野市は常日ごろ、委員会の席でも言いよったんですけれども、空港を2つ抱えておるし、インターチェンジもある。そして今度、新幹線の駅ができるというふうな交通的な利便性、ここら辺も非常にセールスポイントになるんじゃないかというふうに思っておりますが、そこら辺についても、委員会でも言いましたけれども、再度の質問になりますけれども、そこら辺について所感をお伺いします。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

私が首都圏において企業誘致の活動をしている際に、嬉野の優位性、この部分をお話するわけですが、やはりインターチェンジですね、高速が近いと、それから、間もなく新幹線の開業を控えているというお話をさせていただくと、企業側からのイメージですね、非常にポテンシャルが高い地域だということでお話を伺っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

これはもう決まっていることで、しっかりやっていただきたいと思っておりますけれども、もう一つ、企業誘致という部分では、先ほど工場だとか、そういった話もあったわけなんですけれども、親和性という、きょう午前中の話でありましたが、そこら辺をもう一度、市長の考え方、よろしくお願ひします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

嬉野の優位性という話も、先ほど課長答弁の中にもございました。そういう中で、周辺を見渡せば、伊万里湾の伊万里港、港があつたり、武雄のほうでは高速道路に面したところと

ということで、いろいろ地理的優位を強調している自治体は周辺にもあるわけでございます。そういう意味では、嬉野がその中で対等な立場で競争をしていくことは、なかなか難しい部分もあるという中で考えたときに、嬉野の強みて何だろうというふうに考えたときに、優良農地があったり、生産者が安定して営農をさせていただいているということがございますので、まずは優良農地で生産された食品、農産物の加工施設というのを第一線に考えたいというふうに思っておりますし、嬉野市が周辺、山林に囲まれておりまして、その地域資源を生かすという意味と防災という面で、ぜひとも林業振興等をあわせてやっていけるような企業ということで、地域資源との親和性の高い企業誘致につなげていければいいなというふうに、今、考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

農業に関連しては、次の次のところで質問したいと思いますけれども、いわゆる企業誘致のイメージとして、市民の皆様、みんなそうだと思うんですけど、大企業の誘致を考えられるというふうに思います。

ある県で、大型家電メーカーのパネル工場、大規模な工場が進出してきて、最近の工場というのは、要するにコンピューター制御で、そのコンピューターを動かす人間が本社から来て、残った仕事が3K仕事だというふうなことで、なかなか地元の雇用につながらないというふうな実態があったという話を聞いております。

じゃ、どうなったかといえば、群馬県あたりのブラジルの日系2世、3世の方を呼んできて、地元雇用がほとんどなかったというふうな話も聞いておりますし、また、優遇措置が終わった時点で撤退するというようなリスクもあるわけですよ。結局、呼ぶためにいろんな優遇措置をやるわけですけども、なかなか地元雇用につながらない、正規社員につながらないという部分もありますので、今先ほど市長が言われたように、本当に地元から雇用が生まれる、そういった企業の選択というのが非常に大事になってくるんじゃないかなというように私は思うんですけども、そこら辺についての所感をお伺いします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをいたします。

全く同感でございます。やはり中央集権的なかつてのビジネスモデルにおいては、東京を中心に担う機能があって、その下働きをさせられるというような形の、そういう企業誘致の構図が長年繰り返されてきたわけでございます。ただ、そういう中で海外に移転をしたり

とかして、その移転したまちが空洞化してしまったというような事例が、2008年のリーマンショックの前後に繰り広げられた光景だったというふうに思います。

私としても、その点については、地方としても反省をした上で、やはり地域資源と切っても切り離せない関係の中でビジネスを展開していただける企業でないと、そういった搾取だけをされるというような構図になりかねない。それは、お互いにとって不幸な構図だというふうに私は考えておりますので、地域の人がやりがいを持って、そして、嬉野市で働くことの意味を実感してもらえるような業種の選定、困っているからこそ、相手は選ぶというふうに考えようと思っています。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

事務系の仕事の誘致と、今言った企業の誘致、これはもう両輪で進めていかなければならぬというふうに思いますけど、昨日来の話の中で企業、工場団地の整備についての質問があっておりました。いわゆる久間の工業団地、吉田の地区ですよね、農振地を工場団地にするというような考え方のもとに、今、申請をしているわけなんですけれども、特に久間の工業団地、なかなか申請が進まない最大の理由というのは何ですか。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

久間の工業団地につきましては、農地転用というのがハードルがございます。この農地転用の申請の許可を得るには、実際に来る企業さん、これがないとなかなか話が進まないという非常に高いハードルがございます。ここが一番だと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

そこは一等農地を農振除外、転用するわけだから、そういうハードルが高いのか、もともとその許認可するところがそういう許可をハードルをつけているのか、そこら辺の違い、どうですか。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

農地、農振のいわゆる白地ではございますけれども、白地であるといっても、農地からそういう企業の団地ということになりますので、このあたりにつきましては非常に、実際、本当に企業が来るお話がないと、なかなか許可は難しいというところでございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

例えば、そういった農振地以外、いわゆる山林、そういったところを造成して、許可申請をお願いしたときのスピードというのは、今考えてどうですか。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

その該当する土地にどういう網、法がかぶっているかどうかですよね。農地と山林比べたら、当然、山林のほうが話はスムーズに進みますけれども、法的なところはですね。ただし、山林になると、今度、形状的な面、非常にそういう造成に手間がかかるとか、そういう問題も出るんじゃないかと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

そういった規制があるというふうなことで理解いたしました。

しかし、去年のふるさと嬉野会に行ったときに、佐賀県事務所の所長さんとそういった話をしたときに、いざ企業誘致の話を持っていったときに、実際のその土地がないともう土俵に乗っていませんよと、フットワークが軽くないと企業も乗ってきませんということで、誘致の工業団地、これの整備がないと、その話がなかなか進まないということだったんですけども、そういった意味じゃ、ちょっと卵と鶏みたいで、企業が来ないと許可がおりないという部分もあるし、企業誘致の働きかけをしても用地がないからなかなか話が進まないというふうな状況で、非常にこれ難しいなと私は思っているんですけど、そこら辺について、市長はどういう感想ですか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいというふうに思います。

確かに議員御発言のとおり、非常に難しい困難を伴うということは言えると思います。ただ、そういう中で、私どもも具体的な話を、それらしい話をとにかく糸口をつかもうと精いっぱい、今、動き回るしかないのかなというふうには思っておりますけれども、これからいろんな調整も必要にはなりますけれども、私は旧来のオーダーメイド方式にはこだわらず、造成をして待つというようなことも視野に入れながら、今後、検討していかなければならないというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

わかりました。

それで、もう一つ企業誘致の意味におけば、企業を呼んでくるだけじゃなくて、なりわいを起こす起業、こういった方たちを呼ぶのも大事じゃないかなと私は思うんですよ。近々、四国のある町に視察に行こうかと思っているんですけども、そこは割と企業誘致ということで、若手の方の起業がかなり起こっているところなんですよ。環境的にどういった優遇措置があるのか、要するにネット環境がどうなのか、そこら辺をしっかりと勉強してきたいなと思っているんですけども、この企業誘致、私はイメージとしては50人、100人単位で雇っている企業が企業誘致だというふうに思いがちなんですけれども、私は1人でも雇ってくれる方が100件来れば、100人雇用できるじゃないかというふうな思いなんですよ。そういった意味では、この起業、なりわいを起こす、こういったことも大事だろうというふうに私は思うんですけども、そこは市長の見解はいかがですか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

もう議員のおっしゃるとおり、そういった切り口でも、なりわいを起こすほうの起業も支援をしていかなければならないというふうに考えております。

今、旧旅館の跡地を活用して、そういったまちづくりに特化した起業をしていただいている方がおられます。そういった方と一緒に、支援をしていくということも大事だと思っておりますし、その後、続くように、いわゆるクリエイティブ人材を誘致するような動きとして、空き店舗や空き家などのリノベーションをして、午前中ではシェアハウスということで、高齢者向けの福祉ということにしましたけれども、シェアオフィスという形でいろんな小規模な企業さんが入るような仕掛けも、今後考えていかなければいけないのではないかな

というふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

それ、あわせて言えることが、要するに嬉野で生活をしながら仕事があると、職があるということの意味で捉えれば、今回の新幹線の開業その他考えれば、福岡、あるいは長崎、ここまで職場に通って通勤ができるということであれば、またそれも広い意味では企業誘致じゃないかなと、企業誘致につながるかどうかわかりませんが、考え方としては、嬉野に在住しながら仕事ができるという意味では、そういった通勤通学、こういった制度、あるいは福岡、長崎から転入を呼び込む、通告書にないんですけれども、そういったことも大事じゃないかなというふうに思いますけれども、担当課、市長、それぞれ所感をお伺いします。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

新幹線の開通に伴いまして、鹿児島ルートの場合は、薩摩川内、こちらが新幹線の定期補助というのをしております。これによりまして、あそこは薩摩川内から鹿児島まで、通勤時間が20分ぐらいだったと思うんですけれども、そういうことで薩摩川内から鹿児島まで通勤通学をされているという実例がございます。

嬉野市も平成34年に新幹線が開通したときには、そういうのは非常に考えられます。現在も福岡、長崎に通えなくて実際に住んでいて働いておられますので、そういう方たちが新幹線を使うことで、嬉野に住んで通勤通学をされるんじゃないかと思えます。そのためにも、通学通勤の補助あたりも検討していく必要があるのかなと思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

市内の企業誘致だけではなくて、周辺の、新幹線も行けば遠方の企業にお勤めの方も含めて、嬉野に住んでもらうような仕掛けをという御提案だったというふうに思います。

私も、それは本当に同感でございますし、今後、武雄も東川登町とほとんど大草野と境のところに工業団地もできるわけでございますので、その進出企業の従業員さんに嬉野、塩田方面に住んでいただくようなセールスのかけ方も大事だというふうに思っておりますので、

そういう実を取るというやり方も、私ども嬉野市としても大事な考え方ではないかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

これは本当に市民の皆様の悲願だというふうに思いますので、そこら辺、雇用の創出についてはしっかりと頑張っていたいただきたいと思います。

それでは、次に移ります。

高齢化対策で過疎地の公共交通及び買い物対策について、これも午前中の質問に出ておりましたけれども、公共交通の今後のあり方について、所感をお伺いします。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

地域公共交通につきましては、これはもう全国的なことなんですけれども、非常に厳しい現実があります。というのは、バスを走らせてもなかなか利用者がいない。今、問題になっているのは、運転手さんの人手不足、これも顕著化しております。

そういう中で、交通弱者、お年寄りさんとか子どもたち、こういう交通弱者も守っていく必要があるというところで、今からどうしていけばいいのかを全国の自治体が悩んでいるところです。そういう解決策といたしましては、やはりまずは使う方、この方たちのニーズをきちんと把握して、あと、事業者、それから、行政と役割分担をしながら進めていくのが重要なことになるんじゃないかと思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

そういったことで、先ほど後段に言われました運転手の減少、不足で廃止路線になっているという現状があると、つい最近、それが顕著になってきているわけなんですけれども、ということは、もう公共交通に頼っていたら、それもうおのずと運転手がいなくなって廃止にならざるを得ないというような状況も今後考えられるわけですよ。そういった意味において、じゃ、そういった方たちの交通の手段、あるいは買い物をするための手段をどう確保するかという課題になってくるかと思っておりますけれども、午前中もちよっと話に出ておりましたが、一つの例としてコミュニティですね、要するに運営していくというふうなことで、

これも一つの手だろうというふうに思います。

今、公共交通、廃止路線、あるいは生活路線、その他のところ、タクシーもそうでしょうけれども、バス停が幹線のところにあるわけですので、そこまで出てくるのが大変だというふうな声も上がっているんじゃないかなというふうに思いますけれども、そこは使い勝手の面で、そういうふうな意見はないか、担当課お尋ねします。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

実際にある地域では、そういう御意見がありました。幹線のところまで、バス停まで行くのに非常に不自由をしているという声は聞いております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

そういった面においては、一番理想的というたらおかしいんでしょうけど、地域の方が運営をしながら、地域で一番使い勝手のいいような路線の組み方、ここら辺が一番ニーズ的には高いんじゃないかなというふうには思うんですけども、ただ、これは1つ障害があって、今、吉田地区においては福祉バスというふうな形態で走らせておまして、料金を取っていないからああいった形態がとれるんですけども、もし料金を取ってやるようになれば、いわゆる運送業法にかかって、非常に厳しいというふうな状況が出てくるんじゃないかと思えますけれども、そこら辺についてどうですか、確認、そこは。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

この地域公共交通に関しましては、私たちも勉強をしている最中ですが、ある地域では、その地域が自分たちでお金を出して負担をして、そしてバスを、その地域で走らせていると、時間についても、自分たちが使い勝手のいいような時間に合わせてバスを走らせているという事例をちょっと目にしました。今後、そういう形態が一番有効な手段になるんじゃないかと思っております。嬉野市においても、そういうのが導入できないか、今後、検討をしてみたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

今の話聞いて、これ初めて聞いた新しい方法だなというふうに感じておりますけれども、やはり高齢化された方については、とにかく一番いいのはドア・ツー・ドアがいいんですけども、そこまで行かないにしても、ちょっと歩けばバス停までというふうな状況の距離のバス停、この間隔が一番使い勝手がいいんじゃないかなというふうに思います。

そういった意味じゃ、今言われたように地域で地域のダイヤを組むというんですかね、そういった形が一番いいんだろうと思いますけれども、なるべくそういった形で、早期にそういったことを対処しておかないと、先ほど申し上げましたように、今後、公共交通機関も運転手不足で廃止せざるを得ないというような状況も出てくると思いますので、早急にそういった研究をしていただきたいと思いますが、担当課、市長、その辺の所感をお伺いします。

○議長（田中政司君）

企画政策課長。

○企画政策課長（池田幸一君）

お答えをいたします。

現在も佐賀県と、それから、バスの事業者、それから、近隣市町、一緒にそういう勉強会をしております。いろいろ法的な面もクリアしていく必要があるかと思っておりますけれども、ぜひ、早急に実現、どういう形で走らせたほうが一番いいのか、研究をしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

先ほど課長答弁の中でもございました、地域で地域のダイヤを組んで運行するという形態、そういったことをするには、やはり地域の合意形成が必要でございます。運行するかしないかというところは、また、先の話としても、地域の皆さんで今後のことをぜひ話し合う中で、そういう選択肢の一つとして考えていただいて、議論を深めていただくことも大事だと思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

それでは、よろしく願いしまして、次の質問に移ります。

農業戦略についての市長なりの構想というか、そこら辺があればお尋ねを申し上げます。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えを申し上げます。

農業においては、嬉野においては茶業を中心とした営農と、塩田においては米麦、大豆を中心とした営農形態が繰り広げられているということで、若干、地域によって差がございますので、画一的な農業戦略を描くのは難しいということではございますけれども、私どもの考える農業戦略としては、繰り返しで非常に恐縮なんですけれども、やはり嬉野市としては、農業は今後、成長分野、成長産業であるというふうな認識のもとで、施策を展開してまいりたいというふうに考えております。

施設園芸、イチゴであったり、キュウリであったり、そういったところでは、若い経験の比較的浅い人も、そういう最新鋭の環境制御技術をもってすれば、県平均以上の収量を上げて高収入につなげていただいているということもございます。その辺の導入に当たっては、市の農林課なり、県、JAとの連携をとった営農指導で、ぜひ実績を上げていただくようお願いをしてみたいと思いますし、ICTの利活用というところで、午前中の答弁の中でも申しあげましたドローンを活用したり、AIを活用した病害虫対策であったり、高生産技術の開発、そういったものにも県の試験機関と連携しながら、そういう求めがあれば、ぜひ積極的に手を挙げてまいりたいというふうに思っております。

ぜひとも、今後とも私もアンテナを高くして、最新鋭の技術を取り入れながら稼げる農業ということで推進をしてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

午前中のお答えの中に、要するに6次産業化を目指した企業の誘致という話もありましたけれども、そこら辺でいえば、ただ、その6次産業化の企業が栽培まで行って加工するのか、それとも、市内でつくってある作物をその企業で加工するのか、そのイメージとしてどちらを考えておられますか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

イメージとしては、市内の農業者の方が自分の畑で耕作して収穫したものを、その工場に

持ち込んで加工するというような形をイメージはしております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

となると、作物のある程度の確保というのが非常に重要になってくると思うんですよ。そうなってくると、団地化をして、作物の統一だとか考えていかなければならないと思うんですけれども、ただ、その作物にしても、今までの、こういった言い方をしたら失礼になりますけれども、行政、あるいはJAからの指導によって、推進によってする作物というのは、どうしても後発になりがちなんですよね。

要は経営体系が安定して、ある程度収入が見込めると、しっかりと栽培指導ができるような作物をどんと持ってきて、いざ始めたときは、もう生産過剰でなかなかうまくいかないというふうな状況が今までずっと繰り返されてきたわけなんですけれども、それはそれとして、大規模に加工するのであれば、そういったことも必要なんでしょうけれども、ただもう一つ、中山間地の農業の生かし方として、適地適作、そういった作物じゃないと、いいものはとれないと私は思うんですよ。

そういった意味では、ずっと以前の議会、1期目のときに何回か言ったんですけれども、要するにその地域地域、嬉野は平たん、中間、山間ありますので、その地域地域の農業のうまい人というんですか、作物づくりの上手な人に要するに試験栽培というような形でしていただいて、この土地にはこれはしっかり根づくなど、合うなどわかったときに、その地域地域で作物を広めていく、そういった方法も必要じゃないかなと私は思うんですけれども、その辺について所感をお伺いします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員御発言の分を、非常に私も納得できるところがあるわけでございます。ただ、工場で使用する野菜となると、ある程度のロット数、数を確保することも重要になってまいりますので、そういうキャベツであったりタマネギであったり、皆さんが食卓で消費されるような野菜がメインにはなろうかというふうに思います。

ただ、確かに独自性を出すという意味では、例えば、大野原地区のような冷涼な気候を生かしたところでは、また違う作物もできるだろうというふうにも思いますし、県の試験機関で、今、イチゴもさがほのかの後続品種が開発をされておったりもしております。そういう意味では、新しい品種を引き受けてやる、チャレンジする農家さんを応援するということも

大事ではあると思いますが、事、食品加工の中においては割とありふれた食材が中心にはなろうかというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

今までの農業のあり方として、一番農業が不安定だったところは、要するに生鮮作物だから収穫をして市場に出して、他人に値段をつけてもらう。少なければ高騰するし、多ければ暴落する、そういった非常に不安定な状況があるわけですね。そこに6次産業化という考え方が出てきて、加工をして自分たちの思う値段で販売するということにならないと、やはり安定した農業はできにくいというふうに私は思うんですよ。そういった意味で、6次産業化は非常に重要ですので、そこら辺はしっかりと進めていただきたいということをお願いしておきます。

次に、新幹線の構想についてでお尋ねをいたします。

午前中の質問にありましたけど、フル規格についてのお考えをお伺いしましたけれども、再度で申しわけございませんけれども、フル規格に向けた思いをお尋ねいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

当嬉野市としましては、開業効果が最大限発揮されるためにも、関西圏の直通というのは、もう絶対条件でございます。そういう意味でフル規格の整備をこれまで一貫して各方面にお願いしてきたわけでございますので、フル規格で整備した場合の追加負担というのが大きなハードルになっていることは承知しております。

ただ、整備新幹線が国策であるという性質を鑑みれば、ぜひとも国の負担割合の見直しについても、ぜひとも議論を開始していただきたいというふうに思いますし、財政負担の軽減を図るよう、国だけでなく鉄道事業者へも要望を重ねていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

全くもうそのとおりで、本当に関西から直通しないと意味がない、結構時間の短縮を言われる方がいますけど、そうじゃなくて、乗りかえなしでここまで来られるというのが一番魅

力だというふうに思うわけですよ。そういった意味では、必ずフル規格にしていかなければならないと思うし、これ、午前中も言われたように国家事業ですと、はっきり言ってそうなんですよ、国家100年の計ですよ。私が一番怖いのは、その当時の行政マン、その当時の議員、何をしていたんだと言われんように、しっかり、どんなにあらがっても、必ずフル規格に持っていくという気概を持ってやっていただきたいと私は思うんですけども、その意気込みをお伺いします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

私は、このフル規格ということに関しては、逃げずに議論を選挙戦においても訴えさせていただいたところでございます。いろんな思いの中で、周辺自治体あろうかと思えますけれども、やはり最終的には関西に直通して、そして、佐賀県に多くの方が訪れていただく、ビジネスの呼び水になると、そういった効果のある意味では期待をして、いろんな思いもありながら、みんなで招致をしたところでございます。

ただ、環境が変わって、フリーゲージトレインによる直通ができなくなった以上は、前提が大きく変わったわけですので、私どもとしても、前提が変わった以上は、再度その財政負担についての見直しを要求するのは当然のことだというふうに考えておりますし、また、私どもとしても、佐賀県民や周辺自治体の思いに応えるためにも、負担のない形で最良の形のフル規格整備を求めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

もう以前から有志議員の間で、そのフル規格に向けた動きというのは一生懸命やっておりますし、今後もしっかりやっていきますので、行政としては、しっかりそこら辺は継続をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、続きまして観光戦略について、この中からスポーツ大会、合宿等の誘致について、どういうふうなお考えを持っておられるのか、お尋ねを申し上げます。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

スポーツ大会の誘致と観光の関連についてということでございます。

当然、スポーツ大会を開催すると、参加者のみならず、子どもの大会であれば、引率者、保護者、応援、そういった多くの方が嬉野を目がけてやってくるわけでございます。そういう中で、宿に泊まっていただければ、その経済波及効果ははかり知れないものがあるというふうに考えておりますし、地元競技団体の協力のもとで行われれば、その地元の競技力向上にもつながる、一石二鳥、三鳥が望めるのが、まさにそのスポーツ観光の真髄ではなからうかというふうに思っております。

そのスポーツ観光に、嬉野という温泉を持ち、そして、有数のそういうスポーツ施設を持っているというところであれば、嬉野市としては環境としても本当に申し分ないものがあると思っておりますし、これは立派な地域資源でございますので、それを活用して市民福祉の向上につなげていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

実は私、全日本柔道連盟女子合宿、これを3年連続と、ベテランズ国際柔道大会を誘致、御協力をいただきながらやったわけなんですけれども、この方たちの言われることで一番いいのは、要するに宿泊所から施設まで近いということは非常に魅力であると、そして、練習が終わったらすぐ温泉に入れて体のケアができてすごくいいというふうなことで、女子合宿は3年あったわけなんですけれども、ここら辺のPRの仕方いかんによっては、いろんな団体呼び込める状況があるかと思うんですけれども、そこら辺をしっかりとPRしながら呼んでほしいと思うんですが、ここら辺の生かし方について、どう思われますか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

やはり議員御発言のとおり、運動施設と宿泊所の近さ、そして、温浴施設が旅館に備わっていると、しかも良質な温泉であるというところは大きなセールスポイントになりますので、今後いろんなオリンピック・パラリンピックもございます。そして、その先には佐賀国体もあるわけでございますので、そういったチームの合宿地、事前の宿泊地としても選んでいただけるように一層努力をしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

そういったことも踏まえながら——踏まえながらというか、そこまで言わなくても、もう一回、全日本女子合宿誘致に動いたわけなんですけど、今は御存じのとおり、ナショナルトレーニングセンター、味の素のトレセン、これが非常に充実をされていて、指導者としては、もうそこに集めたほうが一番楽なんですよ。なかなか合宿は地方に出ていくという機会はだんだん減ってきて、難しい状況にあるわけなんです。

でも、そういった中において、何で嬉野に行かなきゃならないかと言えば、やっぱり温泉だと思っただけなんです。そこら辺を十分生かしながら、そして、もう一つ大事なのがトップセールス、やはりトップの熱意、これが大きく左右すると思いますので、ここら辺の意気込みを含めて、そこら辺の決意をよろしくお願いします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えを申し上げたいと思います。

やはりトップの熱意が問われる、本当におっしゃるとおりだというふうに思っております。女子柔道についても、トレーニングセンターの中で練習をする、確かにそのためにできている施設でございますので、それが最適だというふうにも思いますけれども、一方でトップアスリートの使命としましては、子どもたちに夢を与えるということも大事だというふうに私は考えております。そういう意味では、地方に出向いて、本当にお忙しい時間で大変恐縮ではあるんですけれども、子どもたちにその技術の一端を見せていただくだけでも、この後に続く子どもたちが将来のそういう強化選手になって、そしてオリンピックで活躍するということが期待されるわけでございますので、ぜひともお願いしますというふうに、私も先頭に立って誘致に動きたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

一番、私たちの思いもそこなんです。本物を見せてやりたい、それだけの思いから始まったわけなんですけど、今のことですね、しっかりと今後もよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、次の項目に移りたいと思ひます。

UDの推進についてでございますけれども、特に公共施設のUD化についてでございます。今後、今まで人に優しいまちづくりというふうなことで、ユニバーサルデザインの推進をしてきたわけなんですけれども、先ほどの答弁のとおり、今後も推進していくというふうなお答へございました。その中で、特に公共施設の今後の統廃合もありますけれども、それを含めた形で、今後残るであろう施設については、ユニバーサルデザインの推進をしていかなければ

ればならないというふうに思いますけど、そこら辺についてのお考えをお伺いします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

当然、現状の施設においても、まだまだそういうユニバーサルデザインという視点で見れば課題の残る運用がなされているところがあるということも、私も承知をしております。そういうのは、施設のハード面での改修というのが第一義になるのかもしれませんが、やはり御承知のとおり、限られた予算の中での執行でございます。そういう意味では、職員の誘導であったりサポート、そういった形で利用者さんになるべく気持ち、気配りをするというようなソフト面での取り組みを優先しながら、ユニバーサルデザイン化、心の面でもユニバーサルデザイン化という形で進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

それでは、担当課にお伺いしますけれども、塩田公民館、今度できる嬉野市民センター、あるいは吉田公民館、総合的に考えて、ユニバーサルデザインについて整備が整っているかどうか、そこら辺をお尋ねします。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

ユニバーサルデザイン、全ての面で満足しているとは言いがたいというふうに思っております。とりわけ今の嬉野公民館については、ユニバーサルデザインにはなっていないというふうなことで、今、建築中の新市民センターで、その対応をいたしたいというふうに考えております。

それと、塩田公民館については、隣に社会福祉協議会もありますので、ユニバーサルデザインとはいいながら、文化、国籍の違いとかいうふうなものを除いたところでのバリアフリー化というのはできているかというふうに思います。

それと、吉田公民館につきましては、議員も数年前から言われておりますけれども、構造的な問題でエレベーターをつけることができないということで、1階のほうで何とか対応できないかというふうなことで言われておりました。去年、バリアフリーの一つということでトイレの改修工事を行っております。それはトイレの洋式化のみならず、今までのバリアフ

リー化とはちょっと言えなかったようなところを、きちっとバリアフリースアーセンターの方の意見をお聞きしながら対応しているものと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

トータルで言えば、そういったことになるんでしょうけれども、一番はずっと議会のほうで言うておりますように、要するに階段の問題ですよ。高齢者の方からもう常に言われるんですよ、何とかならんのかというようなことで、一番最初、1期目当選したときに、前市長に申し上げたときも、今言われるように構造的に無理だというふうなお答えだったんですけども、本当に構造的に無理なんですか。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

当然、新築並みの予算をかければ、できないことはないと思います。財政的な問題があるので、最小の投資で最大の効果を上げるような取り組み、市長先ほど言われた心のバリアフリー、そのようなことができればというふうなことで、担当課内で考えを、いろいろな意見を出して協議はしております。ただ、なかなかエレベーターがないと無理というふうなことで、1つ意見が出たのが、リフトというか、モノレールみたいな椅子を2階に上げるような装置、そのようなものがつけられないのかとかいうふうなことで意見は出ております。まだ見積もり等とかはとっておりませんので、何とも言えないところなんですけれども、いろいろ考え等、意見等の集約はするようにはしております。ただ、今のところ、まだ決定的な結論が出せていないというふうな状況です。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

今、担当課のお答えの中で、新築並みの投資で今言われましたけど、それどういった意味ですか。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

建てかえるほどの費用が出れば、当然エレベーターもつくというふうな、そういう意味でございまして、一部の改修だけだと費用がもう数千万円もかかってしまって、ちょっと今の財政的には無理なんじゃないだろうかという、そういうふうな意味でした。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

ということは、建物がぼろかけん、エレベーターつけても一緒やろもんという意味、どがん意味、もう一回お願いします。

○議長（田中政司君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

吉田公民館の階段が、あの部分が外に出ておりまして、もう御存じだと思いますけれども、あそこに直接エレベーターをつけるとなると、中2階のところにエレベーターが設置されてしまう、階段の踊り場ですたいね、あそこのほうに設置しなければならないと。じゃ、きちんと各階のほうにエレベーターをつけようとする、吉田公民館の入り口のところがふさがってしまうというふうなところで、ちょっと無理だというふうなことだと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

外づけでして、玄関のところも改良すれば何とかなるのかなという気がしないでもないんですけど、そこはそことして、いわゆる財政的な問題だろうというふうに思います。

今回の予算の中にも、いわゆるふるさと応援寄附金ということで、各種分散されてありました。継続事業だったら、ふるさと応援寄附金を財源としたのには非常に無理があるというふうに私は思うんですけども、単独の事業にふるさと応援寄附金を充てさせていただく、ありがたいお金を充てさせていただくことも、一つの手だろうと私は思うんですよ。

ことしの予算書の中にキャッチフレーズというか、寄附をいただくために、ずっとありますよね、「“いきいき”ひとにやさしいまちづくり」、これにばっちり合うんじゃないかと私は思うんですけども、そこら辺、市長どう思われますか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

やはり高齢者の皆さんの活動拠点になっているところなので、確かに議員御発言のとおり、ふるさと納税の趣旨の一つには合致をするのではないかというふうには思います。

ただ一方で、いろんな施策の中で、また考えていかなければいけないということもありますので、今後、研究をしてまいりたいというふうにご考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

辻議員。

**○10番（辻 浩一君）**

この件に関しては間を置きながら、ちょこちょこずっとやっていきますので、しっかり検討をよろしくお願いします。

それでは、最後の質問になりますけれども、市道の整備についての考え方ということでございます。

通告書の書き方が、「安全性の早期確保に」というふうな書き方をしたのは、要するに山間地域の幅員が非常に狭いような状況の場所において、道路改良というお話が出て、道路改良しなくても、道路改良は莫大な資金が要りますので、なかなか先に延びないじゃないですか。しかし、生活道路として厳然とあるわけだから、その安全性を早期確保するために、路面の状況の舗装プラス、例えば、以前から言っているように、側溝があれば有蓋側溝にかえて、少しでも幅員を広げるとか、あるいは道路条件、平たん地の方は信じられないかもしれませんが、道路はのり面があって、下がまたのり面ということで、岩が出っ張ってきたりなんかしておる状況のところもあるわけですよ。平たん地では考えられないような状況、そういった安全性を確保するために、そういった危険箇所、あるいは有蓋側溝、そういった施策をしながら、生活者の安全性の早期確保、これをしていくべきじゃないかなということで、こういう書き方をしているんですけれども、担当課よろしくお願いします。

**○議長（田中政司君）**

建設・新幹線課長。

**○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）**

お答えいたします。

まず、第1点目の舗装というお話でございますけれども、1日目の山口政人議員の御質問にもお答えをいたしましたけれども、今現在は路面の性状調査というのを行っております。それに基づいて、先ほど来、市長が答弁をいたしておりますように、限られた財政というのもございますので、起債がきいて、交付税措置等が採用できるような長寿命化計画を立てながら、舗装につきましては対応していきたいと、長い路線を考えた場合はですね、そういうふうにご考えております。

また、局所的な補修につきましては、年間を通じまして、嬉野地区、塩田地区、舗装業務

を発注いたしておりますので、そちらのほうで地元のほうから御要望があれば早急に対応してまいりたいというふうに考えております。

また、有蓋側溝等のふたがけ等につきましては、議員も御存じかと思えますけれども、少しずつではございますけれども、していつているような状況でございます、年間通じまして、私ども建設・新幹線課のほうが発注するのが大体年間で50業務ぐらい維持業務を行っております。そのほかに路肩が弱いところ、地元から要望があった場合については、それにも早急に対応できるようにということで、年間を通じた業務を発注いたしておりますので、そういった緊急を要するところ等があれば、私どものほうにお声がけをいただければというふうに思っておりますし、また、議員御発言のように、そういう側溝のふたをかけることによって安全性が確保できるということについては、計画的に取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

そこら辺はしっかり対応していただくように、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、次に除草作業の対策についてでありますけれども、市道においても多分工夫さんがローテーションで回っておられるんじゃないかなというふうに思ひますけれども、その地域地域の路面の状況というか、荒れ具合によっては差があると思うんですよね。ローテーションで回っておって、次、回ってくる前にもう繁茂して、地元からの要望がかなりあるけれども、ローテーションで回っているからなかなか作業が進まないというふうな状況で、要望があっているんじゃないかなと思ひますが、そこら辺どうですか。

○議長（田中政司君）

建設・新幹線課長。

○建設・新幹線課長（早瀬宏範君）

お答えいたします。

確かに市道につきましては610路線、300キロメートルからございますので、私どもとしましても計画的に除草等を行っております。ただ、議員御発言のように、特に夏場等になれば要望等も多くて、なかなか計画どおりに行かないというのもあるのも実情でございます。

以上です。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

結局、その地域地域の特性によると思うんですけれども、みずから自助でやられるところ

もあるだろうし、共助でやられるところもあるだろうし、全く行政任せというところもあるかと、差はあるかと思うんですけども、やはりそこら辺の除草については、特に夏に関しては非常に要望が多いところでありますので、ローテーションはローテーションとしながらも、地元の要望があれば臨機応変に対応していただくように、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、最後であります。

市長、今回の選挙戦において、嬉野市内隅々まで回られたと思ひますけれども、殿ノ木庭に行かれたことはありますか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをします。

訪ねさせていただきました。両岩に抜ける道路があるというふう聞いておりました、そこには行きどまりの鉄のゲートが置かれておりました、その先は行きどまりだというふうには現地の方からも聞いておりました。非常に林の中の道路でございますので、その先どうなるんだと気になる部分はございましたけれども、くまなく回らせていただいた中で、現状は確認をさせていただいております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

ずっと昔の林道というか、そういった名残はあるかと思うんですけども、現状として、はっきり言ってあそこは行きどまりのような状況になっているんですよ。そこで、前のときも何回か質問したんですけども、例えば、災害を考えたとき、袋小路になっているような道路が片方がもう崩れて使えないときは、ちょっと行きどまりの状況だったですので、なかなか避難もしにくいというふうな状況が発生するというふうには私は思っているんですけども、そういったことを解消するために、もうごらんになったということで話は早いんですけども、あそこの林道を、市道ではなくても林道作業用の道路として整備するというお考えはございませんか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをいたします。

そういう市道整備以外での手法も含めて、検討はしてまいりたいというふうには思ってお

ります。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

辻議員。

○10番（辻 浩一君）

整備をしてみたいというふうに言われましたので、期待をしておりますのでよろしく  
お願いしまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（田中政司君）

これで辻浩一議員の一般質問を終わります。

引き続き、一般質問の議事を続けます。

1番山口卓也議員の発言を許します。山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

皆さんこんにちは。議席番号1番、山口卓也です。傍聴席の皆様におかれましては、傍聴  
いただきありがとうございます。市議会議員として初めて登壇し、胸が高まる思いです。多  
くの市民の皆様を支えられていることを心にとどめ、皆様の御期待に応えるべく、議会活動  
を通じ嬉野市に発展に貢献していきたいと思っております。

また、2月5日の臨時会において、新市長である村上市長が100年後にも誇れる嬉野市を  
つくっていくといった内容の御発言をされ、感銘いたしました。私も同様に未来にわたって  
暮らしやすい嬉野市を実現すべく努力を続けていく所存です。年齢も近いこともあり、親和  
性を感じております。

さて、前置きが長くなりましたが、議長の許可をいただきましたので、通告書に沿って一  
般質問をしてみたいと思います。

大きく3つの項目について一般質問を行います。1つ目は、今後の公共施設等の管理につ  
いて。2つ目は、産業の振興についてとして、観光、農業、窯業について市長の所信を問う  
質問を、そして企業立地に向けた団地造成に関する質問を、そして3つ目は、第2次嬉野市  
総合計画に係る実施計画についての質問を行います。この実施計画は事業の可視化、見える  
化ですね、この事業の可視化と行政評価の土台となる事業一覧表の2つの目的を持っている  
と考えておりますので、その策定状況についてお伺いいたします。

それでは、まず最初に、1つ目の項目であります公共施設等の管理について質問をいたし  
ます。

質問の前に、その前提として平成28年12月に作成されております嬉野市公共施設等総合管  
理計画について、私のほうから簡単に説明をさせていただきます。

高度成長期以降に整備されてきた大量の施設が建築後30年を超え、今後、大規模修繕や更  
新等の対応が必要となり多額の財政需要が見込まれている状況にあり、公共施設やそれを取

り巻く長期的な人口や財政状況等を把握し持続的な公共サービスの提供を可能とするため、今後の公共施設等の管理のあり方についてまとめられたものです。

その中では、公共建築物に対する投資的経費が今後40年間で約150億円不足する見込みとされており、また今後の方針として「長寿命化による更新施設数の抑制」、そして「人口減少に合わせた更新施設の小規模化」、そして「施設廃止、土地売却、民間との連携」といった公共建築物の削減目標が掲げられています。

そこで質問ですが、公共施設等の管理に係る現状と課題の認識について、また、公共施設等の整備や管理に係る方針について市長の考えをお伺いいたします。

なお、再質問及び以下の質問につきましては、質問席より行います。

**○議長（田中政司君）**

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（村上大祐君）**

それでは、山口卓也議員の御質問に対してお答えをさせていただきたいと思っております。

公共施設等の管理に係る現状と課題の認識についてなどの質問でございます。

これまで公共施設等の維持管理につきましては、施設の劣化や損傷による問題が明らかになってから対症的に修繕を行う事後保全型の管理を行ってまいりました。そのため、緊急に修繕が必要な場合は立ち入り禁止措置などをとる必要があり、その間は利用者にご迷惑をおかけするような形になっておりました。

そのため、今後は施設の長寿命化を図る観点からも定期的に点検診断を行い、その結果を踏まえた計画的な修繕を行う予防保全型の管理に転換を図り、トータルコストの削減及び年間支出の平準化も行っていきたいというふうに考えております。

以上をもちまして山口卓也議員の質問へのお答えとさせていただきます。

**○議長（田中政司君）**

山口卓也議員。

**○1番（山口卓也君）**

ありがとうございます。安定的な維持管理を行っていくために、維持管理の効率化、長寿命化を進められているというふうな答弁だったと思っております。

この計画書には削減というふうな表記がされておりますが、この削減について詳しく質問をさせていただきます。

先ほどは長寿命化ということだけに絞って回答をいただきましたので、改めて削減について質問をさせていただきます。削減という、これまでの増加してきた時代とは真逆の方向性を強いられることとなります。現在、削減に向けたこういった具体的な事例は想定をされておりますでしょうか。

**○議長（田中政司君）**

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

これまでの時代というのは、人口も当然増加をする中で計画されてきたものでございますので、人口減少が加速度的に進まないように私どもとしても努力をするわけではございますけれども、やはりある程度の人口減少は避けられないというのが前提になるというふうに考えております。

そういう中でどうしていくのかということでございますので、今後、削減という形がどんな形になるのかということについては、類型ごとそれぞれの個別計画が現時点では定まっておりませんので、具体的な削減の計画はございませんけれども、削減の方向に向かって進むのだというふうに理解をしております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ありがとうございます。削減の方向に向かって進んでいくということで少し安心をいたしました。

といいますのが、私の所見ですけれども、削減するというと一見ネガティブな印象ですけれども、私はこの件に関しては削減ということに関して、むしろポジティブに捉えております。

なぜなら、先ほど申し上げましたとおり、何もしなければ40年後に150億円の財政負担を強いられるということになります。到底負担できる額ではないでしょう。であるならば、少しずつですけれども、削減を繰り返し、今は厳しい課題だというふうに思いますけれども、むしろ未来に誇れる選択だというふうに思っております。

ですので、厳しいとは思いますが、今後も削減というふうなことを念頭に置きながら、同僚の議員からの質問もありましたけれども、公共交通との関連、それ以外のあらゆる複合的な施策とも連携をしながら、この削減ということにきちんと向き合っていってほしいと思っております。

次の質問に移りますけれども、今現在、体育館の建設で2つの体育館を1つに統合するというふうな形で、目に見える形で現在進行形で進んでおりますけれども、これから老朽化のために更新が迫られているような施設はございますでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

現在、老朽化により更新が迫られている公共建築物というのはございませんけれども、築年数の古い市営住宅などが、今後、更新の対象になってくるというふうに思われます。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口卓也議員。

**○1番（山口卓也君）**

今、特になんてですか。

大事なのは、こういう計画書で目的、目標数値で何か物事を語るというよりも、実際にこの計画を遂行していくということが行政に求められるものだと私は思っております。これらの適正な行政サービスの維持、そして持続的な財政運営を実現するために、公共施設等の削減が必要であるというまず事実、市役所、そして議会、そして市民の皆様でまずは向き合うことが大事だというふうに思い、今回の質問をさせていただきました。

この項目の最後になりますけれども、通告を出しておりませんで、ちょっと恐縮なんですけれども、平成28年12月議会において当時の大島恒典議員が、この公共施設等総合管理計画について、この計画の進め方について質問をされ、当時の谷口市長から市役所内の横断的な調整を可能とする市長をトップとした全庁的な体制を構築する旨の回答がなされております。この計画書にも計画の進行管理として少しだけ示されておりますけれども、改めて村上市長に対して、この適正な進行管理がなされるような検討体制を構築していくような考えはありますか。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

当然、その方針には変わりはないというふうに私も考えております。

私も議員御発言のとおり、責任ある世代として、その痛みを伴うことかもしれませんけれども、向き合っていく必要もありますし、急に削減ということになると地域の皆様に御不便をおかけするわけでございます。

そういう意味では、納得と対話、繰り返し強調させていただきますけれども、やはり削減も削減で、ただ、ある日突然削減するのではなくて、プロセスも大事だと思っておりますので、全課横断的な取り組みが必ず必要になってくると思いますので、私もその方針を踏襲するように考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

納得と対話、これは本当に非常に大事ですので、私たち議会も含めて議論を尽くしていきたいというふうに思っております。

また、計画の進行状況のチェックとか確認といった進行管理は本当に大事ですので、実効的に行われるように努めていただきたいなというふうに思っております。

それでは、1つ目の項目は以上で、2つ目の産業の振興についての質問に移ります。

質問内容に入ります前に、こちらの資料をごらんいただきたいと思います。（資料を示す）皆様には同じものを事前にお配りしております。テレビをごらんの皆様には、ちょっと小さくて見にくいかもしれませんが、こちらの資料は平成28年11月に実施された市民アンケートで、市政に関する満足度調査の結果報告書です。こちらの図は、嬉野市が行う各施策の満足度の分布図でございます。小さくて見えないと思いますが、御了承ください。申しわけございません。

縦軸に満足軸、横軸に不満足軸として、赤い四角が安全・安心分野の各施策、水色の丸が健康づくり・医療福祉分野の各施策、緑色の三角が子育て・教育分野の各施策、黄色の四角が住環境・生活環境分野の各施策、紫の長方形が仕事・産業経済分野の各施策、薄紫の星がまちづくり体制分野の各施策というふうに分布されております。そして、この左上の取り組み評価が高い施策、右下の取り組み評価が低い施策として位置づけられております。

最近の国会中継でも、データは政策形成の基礎であるというふうな御発言がされておりました。満足度というのは、その人が期待する期待値を超えるかどうかで判断されるというふうな前提は前提でありますけれども、今回、この市民満足度調査、このデータをもとに質問をさせていただきたいというふうに思います。

これを見ていただきますと、前谷口市長が人にやさしいまちづくりとして推進されておられました成果が見てとれます。子育てや高齢者福祉といった福祉関係が高い評価を受けております。この流れは、村上市政になっても継続して推進していただきたいというふうに思っております。

また、一方で、仕事・産業経済分野の各施策は、右下の全ての項目で取り組み評価が低い結果というふうになっております。これは嬉野市の弱点だと私は思っております。私は、決して弱点について非難をしたいというふうに考えては毛頭ございませんで、この仕事・産業経済分野、これがこれからの村上市政に期待されている部分であり、なおかつ村上市政が大きく飛躍する可能性を秘めている、そういうふうに考えております。

少し説明が長くなりましたけれども、市長の所信を伺いたく、この仕事・産業経済の振興に向けた総合的な成長戦略、全体的なボトムアップ、そういった視点でどのようにお考えかをお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

このアンケートについても、私も承知をしておるところでございます、実はこの傾向というのは、前の基本計画の後期計画において行われたアンケートでも同様の傾向が示されているということで、やはりこの何年かにわたって、国内の需要低迷、人口減少の中で、観光であったり、あるいは雇用創出の面で課題が残っている、その状況が続いているということであろうかというふうな現状認識をしております。

その上で申し上げさせていただきたいのが、今度の展望ということであろうかというふうに思いますけれども、雇用創出は次世代に、この嬉野市に人を残す上で一丁目一番地の施策であるというふうに位置づけて、選挙戦においても雇用政策、企業誘致、そして市内の商工業の経営支援で地元就職率を10%上げるというようなお約束もさせていただきましたし、新規雇用創出200人ということでもお訴えをさせていただいているところでございます。まずは、この数値目標の達成に向けて全力を挙げることが、仕事分野での取り組みの基本になるかというふうに考えております。

恐らく産業経済ということであれば、お茶であったり温泉を中軸とする観光産業、そして焼き物といった地域資源を十二分に活用した産業振興というのが今後の課題になるかというふうに考えております。

そういう意味では、世界に開けた観光地づくりを進めていくに当たって、お茶もそうですし、温泉、焼き物も全てが史上最強のキラーコンテンツだと、最強の武器だと、強みだというふうに考えておりますので、その辺を観光客並びに広く情報発信をする中で、その担い手の人たちにもやりがいを持って仕事をしてもらう、そして農業と同様、稼ぐということも視点を置いて所得を上げていただくということも肝要かというふうに心得ております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ありがとうございます。私もその目標だったり、現状の課題だったり、嬉野市の強みだったりというのは市長おっしゃられたとお把握をしておりますけれども、具体的な方向性といえますか、どういった、本当にボトムアップするというのは、実際に手段とか、方針とか、そういったものが必要になるかと思うんですけれども、そういったところをもし伺いできれば、お伺いしたいんですけれども。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

当然、ボトムアップという形で、まず支援というのを進めていくということも大事だと思いますし、トップを引き上げるという意味での、今、お茶の農家さんであれば、きら星のごとく世界を股にかけて商売をしていただいている方もいらっしゃいますし、その生産技術においても国内外で高い評価を受けていらっしゃる方もいらっしゃいます。そういった方を、ある意味ではモデルとして未来の若い農家さんを中心に展望を抱いていただくという、そういうトップを持ち上げる、もう両方が必要であろうというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ありがとうございます。私の考えですけれども、やはり日本は観光立国ということで国が戦略を立てておられます。嬉野市も今までいろんな方が質問をされていますけれども、観光を成長戦略の柱としてやはりきちんと位置づけて、その効果を周りの各産業に波及できるような、そういった好循環を生み出すようなまちづくりを進めていかないと、全体的には上がっていかないのかなというふうに思っています。密接にかかわり合っていますし、現状でも若い方を中心に各産業の方々がまとまりある活動をされていますので、この活動をぜひとも支援をしていただきたいなというふうに思っております。

通告書に沿うということだったんですけれども、観光と農業については今までたくさん議員の質問と答弁も聞かせていただきましたので、若干もう省いて、窯業について質問をしていきたいと思っています。

私も、農業については農業後継者の一人ですので、本当に、山口政人議員もおっしゃっていましたが、地域の農業というのは本当に厳しい状況で、今後どういうふうになっていくのかなということで考えています。

また、観光についても、私個人的な考え、アイデアも持っていますので、この2点につきましては、次回以降の一般質問で質問をさせていただければなというふうに考えております。

では、窯業についてです。

多くの窯元や塩田川沿いには陶土事業者が多く、嬉野市の地場産業というふうに私は考えております。実は、先ほど紹介した市民アンケートですけれども、窯業に関して、窯元が多く存在する吉田地区の皆様の満足度、ゼロ%だったんです。この結果を踏まえて、窯業における課題と窯業施策について市長の考え、方針、こういったことをお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

議員御発言のとおり、本当に陶磁器の産業というのは非常に厳しい現状に立たされておりまして、各産地ですね、この嬉野市のみならず、ほかの産地も含めて生き残りのための新たな打開策を今模索しているような状況ではないかなというふうに考えております。

嬉野市では、磁器の産地である吉田地区において、昨年度より肥前吉田焼・吉田地区再生事業としてデザインコンペによる新たな商品開発、人材育成、エリアの魅力情報発信、販路開拓など吉田焼や吉田地区の活性化のために新たな取り組みを行っておるところでございます。

窯元個々の取り組みとしても、いわゆる少し焼成のときにできた黒ずみであったり、へこみ、そういったものを、いわゆるB級品として販売をするところの「えくぼとほくろ」というような取り組みもしていただいておりますし、トレジャーハンティングという形で、そういう焼き物を1かご5,000円という形でいろんな掘り出し物を見つけてもらうなど、ユニークな取り組みを窯元さんにもしていただいております。これについては私どもも継続的にやはり支援をしていく必要があるというふうに考えております。

そして、私が考えるに、やはり焼き物の産地ということで嬉野も売っているわけではございますけれども、伊万里、有田、そういったところと比べると、まだまだ焼き物の産地としての雰囲気づくりというのも大事なのではないかなというふうに考えております。塩田地区も含めて志田焼の里博物館の利用であったり、吉田焼、そして午前中の質問の中にもありました内野山、不動山の窯跡の焼き物文化というものを嬉野市の歴史とともに発信していく中で、嬉野市の焼き物の存在感を高めていただく、今を生きる人たちの、ある意味では産業振興につながるような取り組みに昇華していくことも大事だというふうに思っております。

折しも、おやまさんとして親しまれた、焼き物の振興もしました鍋島直澄公の没後350年が来年ということで、ことしの4月に350年祭が举行されるわけでございますけれども、そういった節目の年ということもアピールしながら、歴史性、物語性、いろんな側面で販路開拓支援にも力を入れてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口卓也議員。

**○1番（山口卓也君）**

ありがとうございます。私も「えくぼとほくろ」、トレジャーハンティング、参加させていただきまして、本当、非常によかったです。とても楽しめました。古きまちの雰囲気を感じたり、窯元のおしゃれな展示スペースができていたり、こういった活動を、先ほどおっ

しやられましたけれども、継続的に進めていただきたいというふうに本当に思っています。

また、市長もおっしゃいましたけれども、焼き物文化の継承、この点についても窯元の方々は切に願っておりますので、先ほど350年祭、そういった契機に進めていただけたらなと思っております。

あと、トレジャーハンティングとか「えくぼとほくろ」、こういったことは民間の活力を活用されて推進できたんじゃないかなというふうに私、思っています。市役所の職員が独自に産業の振興を考えるよりも、広報の情報発信力とかそういった専門性のある民間の方を活用していく、こういったことが産業の振興に大きく寄与するというふうに考えていますので、今後そういった活動をどんどん取り入れていってほしいなというふうに思っております。

次に、これまでも何回か質問があつておりまして、答弁もあつております企業団地について質問を行います。

1月23日の村上市長のインタビュー記事で、これまでのオーダーメイド方式ではおくれをとるため、いち早く用地を造成しなければならないというふうな記事がありました。まず、このことに関しては私も同感です。そして、大いに期待をしております。ぜひとも早期の実現に向けて建設的な議論を深めたいということで、今回の通告並びに一般質問を行わせていただきました。

まず、この考えにお変わりなどございませんでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

当然、私もその発言からまだ二月たっていないわけでございます。状況に大きな変更もあったわけではございませんので、私としてはもう変わりなく、やはり先に造成をして待つというのが基本戦略になろうかというふうには思います。

ただ、先ほどからの答弁の中で、農地転用の中で、そういった具体的な話がないと難しいというような指摘もあつていることも現実でございますので、その辺は同時並行的に進める中でスピードアップを図っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

同時並行ということですがけれども、その団地を造成するに当たっての期間というのは、どういうふうな期間がかかるか想定をされておりますか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

整備スケジュールにつきましての御質問でございます。

適地の地目や区域の規制、形状などの違いによって一概にはなかなか言えないところもありますけれども、県内のほかのまちの状況を見ましても、3年程度というところもあれば、もっとかかるというところもございますので、最短でそのぐらいではないかなというふうには考えておりますが、なかなか一概には申し上げられないというところは申しわけないなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

最短で3年、これが実現すればいいんですけれども、川内聖二議員のときもありましたように、5年から6年というのが一般的というふうに私も聞いております。

先ほど同時並行で行っていくというふうに言われましたけれども、そしたらオーダーメード方式とほとんど変わらないんじゃないかなというふうに思うんですけれども、先ほど農地転用が必要と、農地転用のためには事前に企業が入ってこななければならないと、なおかつ工業団地の最優先の候補地としては久間の工業団地を最優先としていると。こういったちょっと矛盾を受けるんですけれども、その辺の整理をどのように考えられているんですか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

私自身も就任をしたばかりなので、まだいろんなところに話は持って行っていないので、今はとにかく話を持っていくということが大事だと思いますし、セールスをかけていくというところでもあります。

それと同時並行して、とにかく造成のスピードアップができるようにいろいろ工夫をしたいと思いますので、とにかく今は企業誘致に向けて話を持っていくということがありますので、矛盾をするかということであれば、後々になったら矛盾をするかもしれません。今はとにかく企業に話を持っていくということでございますので、なるべくスピード感を持って取り組みたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ぜひともスピード感を持って、そして冒頭言いましたけれども、市民の皆様の大きな期待がここにかかっているんじゃないかなと思っています。組織は戦略に従うというふうに経営学上言われておまして、その市長の戦略、一番最初に思われたその戦略を本当に大切に思い続けて施策の推進に当たっていただきたいなというふうに期待をしております。

ちょっと通告書に沿って質問をいたしますけれども、仮に団地を造成する場合、一般的な費用、あと活用できる交付金とか、そういったものはありますか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをします。

費用につきましても、一概に言えない部分はあるんですけども、今、1ヘクタール当たり1億円から2億円費用がかかるということでございますので、その補助につきましては現在のところ余りないわけでございますけど、今、県議会開会中でございますけれども、平成30年度において佐賀県が新たに企業誘致の環境整備の事業について補助を打ち出しているというふうに伺っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ぜひとも県の補助を受けながら、なおかつ農地転用とかそういったことも含めて県という協力しながら推進をしていってほしいというふうに思います。

また、この団地の造成については市民の願いでありますので、先行投資として費用はかかりますけれども、それ以降に市民税だったり、固定資産税だったり、嬉野市にリターンがありますので、先行投資という部分で推進をしてよいのではないかというふうに思っております。

最後に、企業誘致の推進体制の確保についての質問ですけれども、先ほどから農地転用の許可申請、あと団地の造成、土木関係の造成、企業誘致、いろんなことが一緒に同時並行で進めていくというふうに言われていますけれども、実際の組織としては各部局が複数にまたがって存在していると思います。この複数にまたがっている部局を今現在の企業誘致室1つが担うのか、横断的に1つが調整して複数の部局でされるのか、1つの企業誘致室としてまとまってされるのか、どういったふうな企業誘致の推進体制を組織される予定でしょうか、お伺いいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

今、企画政策課内に企業誘致室があるということでございますので、それだけではというような御指摘だろうというふうに思います。

当然、進出企業の分野というのは、もしかしたら農林であったり福祉であったり、そういう専門性の高い部局にそういう情報があるかもしれません。そういう意味では、職員一人一人が企業誘致のセールスマンであるという意識を持ってもらうとともに、私も各分野横断的に指示を出しながら企業誘致につなげていただきたいと思います。

そして、議員の皆様、市民の皆様、そしてふるさと会に所属の皆様、いろんな人脈をお持ちの方がいらっしゃると思います。そういった意味では、全ての総力を挙げてそういった企業誘致に取り組んでいかなくていけないというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ぜひとも今の答弁に市民の皆様は大いに期待をしておりますので、できるだけ、まさにスピード感を持って取り組んでいってほしいというふうに思います。

それでは、一般質問の最後の項目になります。実施計画について質問をいたします。

市長に少し意地悪な質問をさせていただきますと、嬉野市は事業を何個しているか御存じですか。嬉野市が行っている事業の総数。簡単で構いません、もう意地悪な質問だというふうに理解しながら質問をしておりますので。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えします。

率直に申し上げますと、事業の数というのは把握しておりません。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

すみません、大変失礼をいたしました。私も把握しておりません。ここにいらっしゃる皆さんも把握をされていないと思います。なぜならば、この実施計画がないからだというふうに私は思っています。

かく言う私も昨年11月までこの事業にかかわっておりましたので、大体のことを把握して

おります。この実施計画というのが、向こう3年間の事業の計画を立てる計画であります。

これから嬉野市にとって大事なことは、市役所と議会と市民の皆様が同じ目的、同じ課題、これを共有していくことがまず大事だと思っています。そうじゃないと、この議会でも何の議論もできないというふうに思っています。この事業計画、実施計画を、まずその土台というふうに考えて早急につくっていただきたいなというふうに思っています。

そこでお伺いいたします。この実施計画の策定状況、今現在どういうふうな状況かお伺いをしてよろしいでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをいたします。

基本構想、基本計画、実施計画の3層構造ということになっておりまして、実施計画は基本計画に定めた施策に従って具体的な事業内容を明らかにしていくものでございます。

現在、新総合計画の策定に向けて審議会と各課のヒアリングを行っているところでございます。新総合計画の策定が終了した後に、直ちに実施計画の策定に着手していくというのが今の作業の進捗状況でございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口卓也議員。

○1番（山口卓也君）

ありがとうございます。

合同常任委員会で文化・スポーツ振興課長から1つの事業について、事業費の削減について説明がありました。合理的な理由とその説明がありましたので、私たちも納得してその事実を受け入れることができました。今後、こういった事業の削減についても全庁挙げて取り組んでいくべき必要が私はあると思っています。

そのためにも、この実施計画、事業の一覧表を市役所内でまず取りまとめをしていただいて、その上で議会での議論。事業評価については、市役所庁内でまずは精査をしていただいて、その後、議会で議論をしていくと。そういった流れが順当だというふうに思っています。

そういったふうに、まずはこの実施計画の策定、まだ市長も就任して1カ月ぐらいですので、今後、その6月の策定に向けて市長も一緒にその事業の確認をする目的も持ちながら実施計画の策定に当たってほしいなというふうに思っています。

以上をもちまして、私の一般質問の内容は終わりとなります。初めての一般質問で、つたない点が多々あったと思いますが、市長を初め執行部の皆様、丁寧な御答弁、本当にありがとうございました。

議長、以上で私の発言は終わります。

○議長（田中政司君）

これで山口卓也議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中ですが、ここで15時ちょうどまで休憩いたします。

午後2時44分 休憩

午後3時 再開

○議長（田中政司君）

それでは、休憩前に引き続き一般質問の議事を続けます。

4番山口虎太郎議員の発言を許します。山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

皆さんこんにちは。きょうは最後の登壇になりました。議席番号4番、山口虎太郎でございます。

今回、新しく選挙が改選になりまして、新市長で、また続投の杉崎教育長を初め、本当に御苦労様でございます。そして、嬉野の市役所で長年働いておられます職員の皆様には、本当に御苦労様でございます。私たちもこの66年の間、嬉野町から嬉野市へと変わる中に、大変市民としてお世話になってきた私どもでございます。しかし、今回、私が立候補して、今度の選挙で市民の皆さんの負託に応えるべく議員となりまして、またこれからさらに市議会の皆様とともに、執行部の皆さんとともに相対立しながら、目指すは嬉野の活性化、嬉野の発展でございます。そこを目指して、皆さんとともに頑張っていきたいと思っております。

それでは、最後になりましたが、山口虎太郎、質問をさせていただきます。

嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について伺います。

第1項に、市長は人口減少・高齢化が進むと予想される中、活性化対策についてどう考えておられるのか、これをまず質問いたします。

第2項に、基本目標②で上げてあります嬉野市で働きたい“しごと”をつくる。

3項めに、基本目標④として、嬉野市で安心して暮らしたい“地域”をつくるについて伺いたいと思っております。

あと、質問席のほうで質問いたします。

○議長（田中政司君）

暫時休憩します。

午後3時3分 休憩

午後3時4分 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

ただいまの一般質問に対して答弁を求めます。市長。

**○市長（村上大祐君）**

それでは、山口虎太郎議員の御質問に対してお答えをさせていただきたいというふうに思っております。

人口減少の中で活性化策をどのように考えるかということでございます。

嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的な考え方として、人口減少をできるだけ小さくしながら、ある程度の人口減少は避けられないことを前提に、人口減社会に力強く立ち向かい、自身のまちに愛着や誇りを持っていただけるようなまちづくりを進めるとともに、地域内外の交流を促して、交流人口の増加に向けて持続的に取り組んでいくということで基本方針を定めております。

その中で、大きく4本の柱がございます。1つは、嬉野市に住みたい、行きたいという人の流れをつくるのがまず1点目ですね。2点目が、嬉野市で働きたい、仕事をつくるという点が第2点目。3点目が嬉野市で結婚、出産、子育てをしたいというまちをつくるということが1つ。そして4点目が、嬉野市で安心して暮らしたい地域をつくると。この基本目標に沿って各施策を展開しておるところでございます。

壇上からの御質問の回答は、これでさせていただきたいと思えます。

**○議長（田中政司君）**

山口虎太郎議員。

**○4番（山口虎太郎君）**

それでは、質問させていただきます。

基本目標の2で、嬉野市で働きたい“しごと”をつくる。その中で、(5)のうれしの茶の販路・需要開拓について、具体的な施策、どう進んでいるのかという点でお尋ねいたします。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

うれしの茶の販路開拓ということでございます。

海外の販路開拓に向けた商談成立に向けて、さまざまな施策を展開しております。平成27年度に策定いたしました、うれしの茶海外販路開拓戦略策定に基づいて、課題解決に向けた取り組みをしつつ、展示会、テストマーケティング等を実施し、現段階では3件の商談成立があつておるところでございます。

新たな接点の売り場へのうれしの茶の出荷につきましては、現在、都内で流通、小売、インターネット等、さまざまな場面における需要拡大、販売促進のノウハウを有し、全国展開をしている小売店の販路を持っている会社と契約を行って、販促活動、商品展示会等に出席をしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

世界へ向けての販路拡大ということで努力されていると聞いております。その中において、どういう商品開発というのをやっておられるのか、わかったら教えてください。

○議長（田中政司君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えいたします。

海外への商品ということでございますけれども、やはり海外へ出すとなれば、残留農薬の基準が一つネックになってくると思います。アメリカ、欧米等、各国に基準に合致した農薬基準がありますので、その基準に合致するようなお茶の生産体制を今考えているところでございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

具体的は無農薬茶とか減農薬茶、そういう形の今までのうれしの茶の現在の形での輸出という形の商品なのでしょうか、お願いします。

○議長（田中政司君）

うれしの茶振興課長。

○うれしの茶振興課長（宮田誠吾君）

お答えいたします。

今、この事業でのお茶につきましては、無農薬とか、そういうところは考えておりません。各輸出国に農薬が合致した生産ということで考えております。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

委員会の中でもちょっとお話があったわけですけど、今、外国輸出向けの展示圃場という形でなされるということは聞いております。そういう中で、先輩議員からの話もありましたが、規模を1ヘクタールに限らず、一つの地区を一つのモデルとして大きくやっていくと。即効性のあるそういう海外への対応の仕方というのは、ちょうど話を聞いたわけですが、そういうところを今後はもっと強く進めていってほしいというのがあります。そして、新たに新しい商品の開発をしながら、ネット販売、海外へのそういう販売というものを、よりよ

うれしの茶を進めていってほしいというのがあります。そこら辺を市長、どうでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えしたいと思います。

輸出向けの農園について、飛散農薬、ドリフトの問題もごさいます。そういう意味では、1区画丸々というような御提案ごさいますけど、まさに私もそういった形で無農薬専用の茶畑エリアというのをゾーニングして、区分けして栽培をしていくのも一つの手ではないかというふうに考えております。

そして、新しい商品開発につきましても、紅茶だけではなくて、緑茶の中でもフレーバーティーという飲み方も最近はたしなまれているようでごさいますので、そういった地域の特産物と組み合わせた商品開発であったり、または従来のやぶきたの品種だけではなくて、あさつゆとか、いろんな品種がごさいますので、そうした香りに特化したお茶であったり、いろんなお茶の生産者の中でも工夫をされている方もいらっしゃいますので、そういったところをしっかりと支援をしていきながら、新しい新鮮な受けとめ方をもってうれしの茶が親しまれるように努力をしまりたいというふうに考えております。

以上でごさいます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

今、市長がおっしゃられたとおり、嬉野では若い人たちがいろんな取り組みをして頑張っておられます。こういう人たちと同時に、各茶業組合があります。ここら辺をぜひ大きく一つにして、外国へでも打って出られる、そういう体質の強い組合にしてほしいということも考えております。そのためには、私たち議員も、市長も、やはり市長がトップセールスマンとなってやっていただくというところでどうでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

本当にトップセールスマンとしての役目を期待していただいているということでごさいます。私もその期待を一身に背負って頑張ってまいりたいと思いますし、今度、うれしの茶交流館もオープンするわけでごさいますから、うれしの茶交流館については、今、準備を進めている段階ではありますが、まだまだそういったお茶の魅力情報を発信する拠点として認知度が高いとは言えない状況でごさいますので、そちらの館の認知度とともに、うれし

の茶の認知度も高まるようにトップセールスに努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

わかりました。

次は、(6)の活力ある担い手の育成と農業後継者の確保について、その実績はどうなっているのか伺います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをいたします。

青年就農者の確保についてでありますけれども、総合戦略の累計目標では32名ということで、平成29年度末までの実績は15名ということになっております。

若い農業者をどのように定着させるかが、まだまだ計画年度の残りを考えますと、努力が必要だというふうに思っております。今、武雄市のキュウリのトレーニングファームでも訓練をしていただいている若い就農者が、嬉野市内での就農を希望しておりますので、今後、農地取得であったり、今後の営農についても、地域の営農リーダーであったり、JAの青年部、あるいはその4Hクラブの皆さんといった組織とのつながりを手助けして、営農に困らない、そして悩みを分かち合いながら、高収入、高収量をなし遂げていただくように、市としてもいろんな機関と連携しながら努力をしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

後継者の問題につきましては、各地区がほとんど悩んでおります。何で悩むかというのが、やはり今の価格では食っていけないというのが一番の原因にあるわけです。そこをどう対処するのか、どう活性化させるのかという意味で、やはり市長がトップセールスマンとして、皆さんと一緒に引っ張っていく、そういう活気ある1年間、2年間にしていけないと、相当厳しい状況になると私は見ておるわけです。

事実、私たちの地区でも、担い手であった若い人が倒れただけで、やはり2町歩、3町歩、4町歩と減るわけです。そういうことも現実に大きくかかわってきております。市長のトップセールスという形の緊急なそういう課題を改めてつくっていただき、この茶業界に対して、ぜひ全力で取り組んでいただきたいと思います。以上でございます。

もう一つ、ここ数年のお茶の市場の流通センターのうれしの茶の売り上げですね、その中で約4億5,000万円ですかね、そのくらいの数字が過去7年ぐらいの間に減っているわけです。そういうことが本当に農家の懐に打撃を与えているということが現実にあります。ということをつけ加えておきます。

続きまして、“うれしのブランド”づくりと“稼ぐ”農業への取り組みについて、現状とその実績を伺うということで挙げております。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

総合戦略の中に書いてあります嬉野市ブランド野菜の作目数の累計目標というのは3種類ということでございまして、28年度末に3種類を達成しております。ミニキャロット、ブロッコリー、それからキャベツというふうに伺っております。そして、塩田地区が中心になりますけれども、酒造用米の作付目標の150ヘクタールということで掲げさせていただいておりますけれども、平成28年度末までの実績は115ヘクタールということになっております。1俵当たりの単価も食用米よりも高いわけでございますので、こういった単価の高い酒米の生産も奨励をしてみたいというふうに考えております。

6次産業化に取り組む農業者の累計目標についても目標数値を定めておりますけれども、10人に対して28年度末の実績というのは6人ということになっております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口虎太郎議員。

**○4番（山口虎太郎君）**

ブランドづくりということで、私たちが若いうちからイチゴのほうでやってきたわけです。この資料は1団地1億円売り上げろという目標でずっとやってきたわけです。今の現在は、嬉野、吉田の中でイチゴの生産者もわずかになりました。こういうのがてきめん売り上げが上がらないと、こたえてくるわけですね。で、後継者がいなくなるということで、今、JAさんも一生懸命頑張っております。しかし、やっぱり若い人がいないと団地ができないんです。そこで私は考えたのは、よそからの資本でそういうことができないものかということで、当然、農業委員会との兼ね合いも出てきます。そして各地区の生産組合、それから法人化した組合というところの大きな折衝も必要になってきます。ここを動かすには、やはり市長の力が物すごく大事になってきます。市長にやはり外部の資本の投入をしてでも、そういう産地づくり、ブランドづくりを嬉野、塩田のほうにつくっていけるのかどうか、ちょっとそこを伺いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

よそからの資本ということで、恐らく民間の事業者の農業参入というのを想定されていらっしゃるんだろうというふうに思っております。JR九州が既に取り組んでおりまして、今、西鉄もそういった農業事業に基山町において参入をしておるところでございます。私どもとしましても、議員の御提案でもございますので、そういった民間の農業参入についても、研究をまずはしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

ありがとうございます。今からあと3年以内にそういうことをきっちりやらないと、嬉野の農業というのが本当に衰退していくのはもう目に見えていると思われまして。それはなぜかということ、やはり労働力不足なんです。このブランドづくり、そういう産業を活性化させるためには、やはり労働力をどう確保、どこから持ってくるのかということを取り組まない、嬉野の活性化というのはなかなか進まない。最初は、老人の方々でもそれは構いません。ところが、やはり主体となれる若い人たちが残るか、外部から来ていただくか、そこの政策はありますか、市長。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

農業、非常に人手がかかるものでもございます。今の時期になりますと、新タマネギの収穫時期で、この一帯、求人がたくさん出ているわけですが、チラシを見る限り、なかなか人が集まっていないのも現状であろうかというふうに思います。そういう意味では議員御発言のとおり、厳しい現状にあるということは私も重々承知をしております。

そういう中で、どう人手を確保していくかということでございます。外部の資本を調達したというのも、それも一つの解決策になり得る有力な候補だと思いますし、あとは私の政策の中でも上げさせていただいたのが、農福連携、福祉との連携の中で、障がい者の皆さんが福祉施設で農業に取り組む事例も最近はふえております。農業ということ、皆さんやっつけらっしゃる方は、みずからを百姓というふうに言われますけど、100個の仕事があるわけでございます。障がいの特性によっては、できないこともありますけれども、できることを皆

さんでやって、一つの農業という形になりわいにしていくという形も、今、農林水産省と厚生労働省の共同事業で推進がなされておりますので、そういった方向でも研究をしながら、人手の確保に向けて全力を挙げていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

福祉の方のそういう支援の仕方、応援の仕方というのも当然あります。同時に、嬉野の茶業とか、それから施設園芸というのは、そういう力だけでは補えないという難しい部分があります。よそはいろんな形で人材バンクという形を市とかいろいろなところにつくっておられます。私はそれを以前からJAの中でも言ってきたんですけど、なかなか実現ができませんでした。JAの中のいろんな職員さんたちをもっとふやして、そしてそういう農家の労働力と応援に対して、対価を払ってやれないのかということも昔から言ってきたわけですけど、なかなかそこが進みませんでした。今後、やはり嬉野市として、そういう人材バンクを農業の人たちに向けて、また市内の人たちに向けて取り組んでいただけますでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

人材バンクという形で登録をして、そういう農作業の担い手になっていただくという方法ですね、その辺は人材派遣法とか、いろんな法律の関係もあると思いますので、研究をまずはしてまいりたいというふうには思います。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

早急に研究していただいて、人材が確保できるような方法をお願いしたいと思います。

続きまして、3の基本目標4、嬉野市で安心して暮らしたい“地域”をつくるということで、(1)コミュニティ活動の促進について、具体的な施策のほかにもどのような活動があるのか、少しそこを伺いたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

地域コミュニティの活動の、今後、具体的にどうしていくのかということだというふうに思いますけれども、今、第2次基本方針を作成したところでございます。その中には、地域のことは地域で決めるという地域内分権の考え方や、地域は地域で守るということを改めて強化テーマに定めて、各コミュニティの活性化に努めるつもりでおります。自主防災組織の立ち上げであったり、避難訓練をしていただいておりますし、地域おこし、耕作放棄地の解消に向けてコミュニティとしても取り組むというような事例も起きておりますので、地域の困り事をいかに自分たちの手で解消するか、そこに行政がどのように支援をしていけるのかということは今考える時期に来ているのかなというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口虎太郎議員。

**○4番（山口虎太郎君）**

今、コミュニティは、区長さんたちはほとんどやられていると思います。区長さんたちの仕事も、地元の仕事とコミュニティの仕事と本当に忙しいという体でやっておられます。

私がちょっと提案したいのは、やはり各行政区の中で、昔は要するに納税報奨金とかいうのが当然戻ってきたわけですね、あったわけです。これについてはいろいろ問題があって、途中でやまったわけですが、今、そういうふるさと返礼の納税のあるわけでしょう。その一部でも、やはりそういう区に一度補助してあげたら、民生委員さんの方や、また周りの人たちがそういう資金を使って、お金を使って、また地域を自分たちで考えていくという、いろんな使い道があると思うわけです。ぜひそういうところで、ふるさと納税の使い道をそういう市民全体の各区のほうに幾らかでも落としていただけたら幸いだなと考えております。ぜひよろしくお願いします。

続きまして、地域における身近な移動手段の確保についてということで伺います。

平成26年度の公共交通利用者数の現状が37万2,000人、同じく予定で31年度も同数となっているということで、ここは何でなのかということで伺いたいと思います。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

人口減少社会において、公共交通利用者の増加が見込めない中で、交通事業者の努力だけでは課題を克服することが困難な状況であることは、御承知のとおりかというふうに思います。

また、市の財政状況も厳しさを増してきておる中で、現状維持が困難な状況にあるということでございます。

現在、嬉野市内には廃止路線代替バスで4路線、生活交通維持路線が4路線、乗り合いタ

タクシー事業路線が2路線走っており、平成26年度の公共交通の利用者実績の合計が、全路線合計で37万2,000人ということでございます。目標年度の平成31年度は、現状維持をしていくということと、若干の人口減少を踏まえて目標値を設定いたしましたので、同数ということになっております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口虎太郎議員。

**○4番（山口虎太郎君）**

今、皆さんも全員がわかっているように、公共機関に対して、やはり朝から子どもたちが乗るとか、そういうのが愕然と減ってきたわけです。何でかという、やはりバス路線が高いという部分で、それを安くするためには、人が多く乗らなければならないということで、そういうところでの市の各バス会社やタクシー会社に対しての支援というのはどういう形でやっておられるのか、伺います。

**○議長（田中政司君）**

企画政策課長。

**○企画政策課長（池田幸一君）**

お答えをいたします。

バス、それから乗り合いタクシー、両方に市の補助金を出しておりますけれども、既に一般財源を3,000万円超えている状況でございます。市長答弁にありましたように、非常に市も財政上、厳しい中で、そういうバス事業者さんには今も補助をしているというところがございます。

以上です。

**○議長（田中政司君）**

山口虎太郎議員。

**○4番（山口虎太郎君）**

ありがとうございます。市の一般財源からということで、市の負担も相当ずっと毎年のことです、なってくると思います。ぜひふるさと納税を活用していただければ幸いかなと思うんですけど、市長どうですか。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

ふるさと納税の活用も一つの手段だと思いますし、あるいは国の有利な交付金事業も検討しながら、さまざまそういった皆さんに御不便のないように最大限皆さんに寄り添う努力を

してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（田中政司君）**

山口虎太郎議員。

**○4番（山口虎太郎君）**

バス路線とかタクシー券とかというのは、当然いろんな形で出されておるのは御承知です。そういう中で、いつまでもこの人口減少が進むというのは、それをとめるのがやはり行政だと思っわけです。ここに対して、一応今の質問は今後まだ課題があるということで、次の高齢者の増加と運転免許証の返納による山間地集落の買い物難民と言われる、そういう状態がここ少しずつ現状としてあらわれておるわけです。

そういう中で、私の考え方として、吉田のヨッシー号とか、ああいう形の普通車であつて数人を乗せて行けると。そういう人たちが実際、個人的にですけど買い物にスーパーに連れてきておられるわけですね。それを私としては、スーパーの店長さんたちとちょっと話をしてみたわけです。こういう山間地の要するに買い物に不自由される方々に対して、市が巡回の定期的な、もう木戸先まで行く小型のそういうものを手配していただいて、スーパーさんと各病院の前とかというパターンをつくっていただいて、そういう方々の利用に毎日利用していかれるものかどうか、ちょっと伺いたいと思います。

**○議長（田中政司君）**

市長。

**○市長（村上大祐君）**

お答えをしたいと思います。

そういった形での買い物支援というのも一つの選択肢だろうというふうに私も考えておるところではございます。

ただ、どの地区も一様にといいわけにもいきませんので、その辺は地元住民のニーズも御要望もお伺いしながら、どんな形での移動支援をしていくのかというのは考えてまいりたいというふうに思っております。

今、現状、嬉野地区におきましては、老人福祉センターのほうにバスを各地区にやりまして、それで老人福祉センターでおろして、温泉入浴を楽しまれたり、ほかにその市街地に出られて買い物をして帰られるというようなこともされておるようでございますし、塩田地区においても、今、公民館のところでやっています生きがいデイを使っていただいて、生きがいデイに行っている間に、近くのスーパーに送迎をして買い物していただくというような形での支援はさせていただいているようでございます。

いずれにしても、これ以上、じゃ、高齢化が進行した場合には、またいろんな手だてを考えなければいけないというふうには考えておりますが、現状ではこういった支援もさせてい

ただいているということも御紹介をさせていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

そのバスの運営についてが一番のお金を使わにゃいかんわけですね、運転手さんの費用とか。ということで私が考えたのは、そのスーパーさんからも協力をいただいて、そういう巡回の順路をつくっていただければ、オーケーじゃないかと思うわけですね。そしたら、幾らかでも市の負担は減っていくし、また、お客さんとしてのそういう人たちもまた利用できる。行く行くは、やはり市長が観光の目玉として、人の移動というものを含めて考えておられるなら、行きたいところにそういう行けるような手軽な路線というものをぜひ確立してほしいと思っているわけです。そこについてはどうでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員御提案の店舗の事業者の御負担もお願いするというような形もあるんじゃないかというふうに承りました。それについては、ぜひとも検討はさせていただきたいなというふうに考えておりますし、一方で、観光とあわせた移動の形態を考えてはいかがかということも、ぜひとも検討をしてみたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

山口虎太郎議員。

○4番（山口虎太郎君）

ありがとうございます。私もまだ初めてで、いろいろ聞きたいとかという質問もありましたが、何せ初めてでございますので、一般質問を今私の思うところで終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（田中政司君）

これで山口虎太郎議員の一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了をいたしました。

本日はこれで散会いたします。

午後3時37分 散会